

# 大分県埋蔵文化財年報9

---

平成11(1999)年度版



2001

大分県教育委員会

---

表紙:槍先形尖頭器(湯布院町かわじ池遺跡)  
原寸:本書108頁参照

# 大分県埋蔵文化財年報9

---

平成11(1999)年度版

---

2001

---

大分県教育委員会

---

## 序 文

近年の埋蔵文化財を取り巻く環境をみますと、地方分権推進計画に基づく文化財保護法及び文化財保護法施行令の改正の流れの中で、国と地方公共団体との役割分担の見直し、機関委任事務の廃止等の改正が進められてきており、当教育委員会でも対応を進めているところです。

県内の発掘調査につきましては、昨年度だけで300件を越えています。注目される遺跡としては数千点にのぼる旧石器時代の遺物が出土した天瀬町高瀬遺跡、郡衙や津の施設との関連が考えられる国東町飯塚遺跡、庭園遺構・土塁跡・中国や東南アジア産の遺物が発見された大分市大友館跡等があり、特に大友館跡は国指定史跡へと結実しつつあります。

本書は、平成11年度に大分県内で実施した発掘調査や埋蔵文化財に係わる事業の概要をまとめたもので、掲載した発掘調査の成果をみますと県内各地で各時代の貴重な遺構・遺物が発見されているほか、埋蔵文化財の保護・普及啓発に係わる諸活動が積極的におこなわれていることがわかります。

今後、本書を埋蔵文化財保護行政の資料としてのみならず、学術・教育の資料として活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、刊行に際しご協力をいただきました関係各位に対して、衷心より感謝申し上げます。

平成13年3月30日

大分県教育委員会教育長

田 中 恒 治

## 目 次

1. 本書は平成11年(1999)年度に大分県内でおこなわれた発掘調査の基礎データと埋蔵文化財に係わる資料を掲載したものである。
2. 平成11年度に県内でおこなわれた本調査については、調査概要の一部を取り上げるとともに、試掘調査については取り扱い結果を含めて一覧表で掲載した。
3. 「Ⅸ.大分県内遺跡発掘調査概報」は大分県教育委員会が平成12年度に国庫補助金をえて実施した大分県内遺跡発掘調査事業の調査概報で、県内で実施されている農業基盤整備事業及び林業事業に対し事前の分布調査並びに試掘調査をおこない、その概要を記すものである。なお、調査の実施にあたり、大分県農政部、同林業水産部、同各地方振興局、県内各市町村農業基盤整備関係事業担当課、各市町村教育委員会の協力をえた。
4. 本文中に使用した遺跡番号は『大分県遺跡地図』大分県教育委員会 1993 に用いた台帳番号と同一である。
5. 新発見遺跡については『大分県遺跡地図』の掲載様式に従い、従前の台帳(台帳番号)に追加したものである。
6. 本書中の地形図は国土地理院『2万5千分の1地形図』を使用した。
7. 「Ⅰ.埋蔵文化財保護行政の現状」は大分県教育庁文化課主幹兼埋蔵文化財第二係長 栗田勝弘、「Ⅲ.各遺跡の調査概要」・「Ⅳ.遺跡別時代一覧」・「Ⅴ.新発見遺跡一覧」・「Ⅵ.周知遺跡変更一覧」・「Ⅶ.現地説明会・展示会・講演会・シンポジウム・研修・指定物件一覧」は各担当者、「Ⅷ.平成11年度埋蔵文化財関係文献一覧」は同文化課 主査 田中裕介、「Ⅸ.大分県内遺跡発掘調査概要」は同文化課 副主幹 栗原 眞、「資料紹介」は同文化課 主幹 牧尾義則、同文化課 主査 綿貫俊一がそれぞれ執筆・実測した。その他の執筆及び編集は同文化課 主任 染矢和徳がおこなった。

## 目 次

Ⅰ. 埋蔵文化財保護行政の現状	1
Ⅱ. 埋蔵文化財発掘届一覧	2
Ⅲ. 各遺跡の調査概要	7
Ⅳ. 遺跡別時代一覧	92
Ⅴ. 新発見遺跡一覧	98
Ⅵ. 周知遺跡変更一覧	101
Ⅶ. 現地説明会・展示会・講演会・シンポジウム・研修・指定物件一覧	102
Ⅷ. 平成11年度埋蔵文化財関係文献一覧	106
Ⅸ. 大分県内遺跡発掘調査概報	109

## I. 埋蔵文化財保護行政の現状

県教育庁文化課の体制は、埋蔵文化財第1係が2名、中判田の文化財資料室にある埋蔵文化財第2係が24名である。埋蔵文化財第1係の業務としては、国庫補助事業の取りまとめ、市町村教育委員会や開発部局との連絡調整等が主な業務といえる。一方、1つの係としては、飽和状態を遥かに超えた埋蔵文化財第2係は、昨年度を踏襲しつつ、5つの班を設けて事業の対応をした。つまり、一般庶務事業の庶務班、建設省・道路公団などの受託事業班、資料の貸し借り・研修会や巡回展などを企画する資料管理班、大型プロジェクト事業の県事業1班、一般県道等や農業基盤整備事業を担当する県事業2班である。

市町村体制は昨年と変わらず、58市町村の内、30市町村に58名の専門職員が配置されており、市町村事業や民間開発に伴う埋蔵文化財の保護と開発の調整にあたっている。

さて、県内の主要な発掘調査としては、大分市の大友関連遺跡の調査と国東町の庁舎建設に伴う調査がある。大分市教委の調査では、大分駅南土地区画整理に伴い、方2町区画の大友館庭園跡の一部や、館の西側土塁が発見され、国指定史跡としての検討がなされつつある。また、大分県教委の大分駅周辺総合整備事業に伴う調査では、大友館の南側に位置する御蔵場を囲む堀の一部が発見されており、『府内古図』に記載された、大友館とその関連施設の位置が確定しつつある。一方、国東町教委が調査している飯塚遺跡の泥炭層からは、古代の土器とともに、数多くの木簡類が出土している。今後、その判読や遺跡の性格等の解釈が待たれるところである。

一方、文化課が主催する研修会としては、県内の文化行政担当者、農政部・土木建築部等の開発部局職員、新採用教職員等を対象にしたものである。平成11年度の文化行政担当者研修会は、熊本県文化課の大田幸博氏による「鞠智城跡の調査と整備について」という講義を企画した。これは、史跡整備を通じて、文化財の保存と活用の問題点を検討したものである。また、農政・土木建築部等の職員には、文化財保護法の精神を理解し、埋蔵文化財行政に理解と協力を求めるため2回の研修会を実施した。一方、新採用職員研修では「文化財からのメッセージ」と題して、小・中・高等学校等の新採用教職員に、発掘調査の体験学習を実施している。文化財行政の最先端を理解して頂き、学校現場でその重要性の一部でも還元していただくことを意図したものである。

一般県民への普及啓発活動として、文化財行政への理解と協力を求めるため、地元教育委員会との共催で、年2回の巡回展「豊の黎明」展を開催している。本年度は佐伯市と三光村でおこなった。また、文化財資料室のパンフレットとして『昔人のこころ』を刊行した。この小冊子は、発掘調査や遺物整理、旧石器時代から近世に至る通史を平易に解説したオールカラー版である。埋蔵文化財行政への県民の理解と協力を願う基礎的なガイド用の冊子である。

ところで、平成12年度からの地方分権に伴う『文化財保護法』の一部改正が平成11年7月、『文化財保護法施行令』の一部改正が平成11年9月におこなわれた。また、それに伴って、数多く出されていた文化庁通知も11年度で廃止されたものが多い。埋蔵文化財保護行政に関しては、そのほとんど全てが文化庁の委任事務から自治事務への変更となった。文化庁を核として、培われてきた文化財保護行政30年の思想と理念が、各地方公共団体が一人歩きしていく中で試されていく時代になったともいえるようである。

## II. 埋蔵文化財発掘届一覧【57条】

遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代	根拠条	掲載番号
黒島城跡	白桦市大字佐志生2-5152-2	白桦市長	公園造成	古墳	57条3	75
国分遺跡	大分市大字国分掘尾745番地外	個人	その他の建物	奈良・平安	57条2	91
中世大友城下町跡	大分市大字大分1869番地外	民間	その他の発見	中世	57条2	90
下郡遺跡群	大分市大字下郡字2871-1番地外	大分市長	区画整理	奈良	57条3	85
下郡遺跡群	大分市大字下郡字寺小路2573-1番地外	大分市長	区画整理	縄文～近世	57条3	167
下郡遺跡群	大分市大字下郡字上サ2135-1番地外	大分市長	区画整理	縄文～近世	57条3	166
中世大友城下町跡	大分市大字大分字上井煮	民間	宅地造成	中世	57条2	—
日田糸原遺跡	日田市東書1丁目8-1	個人	その他の発見	奈良～近世	57条2	—
鶴崎町遺跡群	大分市東船崎3丁目12番	民間	宅地造成	中世・近世	57条2	93
羽田遺跡	大分市大字片島字下川田448-1外	個人	その他の建物	弥生	57条2	89
近地城跡	大野郡朝地町大字寺田847番地	民間	その他の発見	中世	57条2	211
日田糸原遺跡(上手地区)	日田市大字西有16字上サ48番2外	民間	宅地造成	奈良～近世	57条2	20・2008
友田坂本遺跡	日田市大字友田字坂本2140外	個人	宅地造成	中世	57条2	266
大渡遺跡	日田市上内町148-2	日田市長	道路	奈良・中世	57条3	26・2698
大塚遺跡	直入郡久住町大字有長4346番地	大分県知事	農業開墾	弥生～古墳	57条3	196
青柳遺跡群(脇遺跡)	直入郡久住町久住574番地	大分県知事	農業開墾	中世・近世	57条3	197
元宮遺跡	日田市大字求麻原字堂崎604-1	民間	土砂採取	古墳	57条2	20・2008
真堂遺跡群 (1号・2号・3号・向原西地区)	大分市大字松岡マカヤ下～マカヤノ上	大分土木事務所長	道路	古代	57条3	179～181
西本桑原	東国東郡安岐町大字西本	東国東地方振興局長	農業開墾	奈良～近世	57条3	50
山ノ神谷遺跡群	直入郡荻町大字桑本字矢所317番地外	大分県知事	道路	弥生	57条3	219
釘野千軒遺跡	玖珠郡九重町大字荻野上字釘野63番地1	九重町長	道路	中世	57条3	241
大塚遺跡	大野郡三瀬町大字菅生	民間	その他の建物	旧石器	57条2	213
佐伯城下町	佐伯市城下町西町4番4	個人	その他の建物	近世	57条2	190
利野遺跡	大野郡津井町大字利野	建設省九州地方建設局 佐伯工務事務所	道路	旧石器	57条3	—
高瀬遺跡	日田郡天瀬町塚田字高瀬1753	大分県知事臨時代理 大分県副知事	道路	旧石器	57条3	224
篠田野遺跡群	日田郡天瀬町大字篠田字平草1761-1	民間	その他の発見	旧石器・縄文	57条2	225
下郡遺跡群	大分市大字下郡字葉エ2004番地の1外	大分市長	区画整理	縄文～近世	57条3	94
下郡遺跡群	大分市大字下郡字ヤシギ2956-5外	大分市長	区画整理	縄文～近世	57条3	112
下郡遺跡群	大分市大字下郡字サ2185-3外	大分市長	区画整理	縄文～近世	57条3	—
中世大友城下町跡	大分市元町4731番2外	民間	住宅	中世	57条2	97
朝の口遺跡群	大野郡八潮町大字朝北373番地	大分県知事	道路	縄文	57条3	212
下尾止遺跡	東国東郡国見町大字下尾止2042-1番	民間	その他の発見	古墳	57条2	—
東中尾遺跡群	大分市大字横尾2972	大分市長	道路	弥生～古墳	57条3	171
飯屋桑原(C地点)	東国東郡安岐町大字飯屋	大分県知事	農業開墾	奈良～中世	57条3	51
下郡遺跡群	大分市大字下郡字中2704-1	大分市長	区画整理	縄文～近世	57条3	96
下郡遺跡群	大分市大字下郡字2229-1外	大分市長	区画整理	縄文～近世	57条3	—
本村遺跡	日田市大字蔵母字本村886-1	民間	宅地造成	中世・近世	57条2	246
西郡丸遺跡	別府市石垣東4丁目1086外	個人	その他の建物	弥生	57条2	67
山田遺跡	日田郡天瀬町大字塚田字山田	大分県知事	農業開墾	旧石器・縄文・ 中世・近世	57条3	228
羽田遺跡	大分市大字片島901番地1	個人	その他の建物	弥生	57条2	80・126
中世大友城下町跡	大分市隈徳町2丁目3023番1外	民間	その他の建物	中世	57条2	104・108
家野遺跡	日田市大字家野字立平1391-2	民間	その他の建物	弥生	57条2	76
城原D遺跡	大分市大字城原字原11640番地外	民間	宅地造成	弥生	57条2	—

遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代	根拠条	掲載番号
慈木遺跡	大分市大字窪野字地蔵本6番1外	個人	その他の建物	弥生	57条2	109
下郡遺跡	大分市大字下郡字上92147-1	大分市長	区画整理	縄文~近世	57条2	—
安心院坐落跡	宇佐郡安心院町大字上40	大分県宇佐両院振興局	農業開墾	中世	57条3	47
上田原遺跡	大野郡三重町大字上田原字立野	二重町議	その他の開発	弥生	57条3	214
日田桑里遺跡	日田市大字三和字長洲2610-1外5番	民間	その他の開発	奈良~近世	57条2	—
府内城・城下町	大分市大字町1丁目1367外	個人	住宅	中世~近世	57条2	176
又井遺跡	速見郡山香町大字寅成3000番地外	山香町長	その他の建物	弥生	57条3	—
畑田遺跡	宇佐市大字同部字宮ノ下76-4外	宇佐土木事務所長	道路	古墳	57条3	—
別所遺跡	宇佐市大字別所字郷30-1	宇佐土木事務所長	道路	奈良~平安~近世	57条3	3-16
下郡遺跡群	大分市大字下郡字寺小路2656番地外	大分市長	区画整理	縄文~近世	57条3	—
下郡遺跡群	大分市大字下郡字大91819-1番地外	大分市長	区画整理	縄文~近世	57条3	169
上野大女塚跡	大分市上野丘西	大分市長	その他の開発	中世	57条3	—
玉沢地区区画跡	大分市大字玉沢字長通838番地外	民間	その他の開発	縄文~中世	57条2	178
ホッポ遺跡	臼杵市大字高山字西平1374-1外	民間	その他の建物	縄文~弥生	57条2	78
下野南遺跡	大分県杵築町大字下野字上大471番地	民間	弥生	弥生	57条2	—
元宮遺跡	日田市大字泉来里字笠置607-2外	民間	その他の建物	縄文~中世~近世	57条2	253
府内城・城下町	大分市府内町1丁目6-33	個人	住宅	近世	57条2	—
毛井遺跡	大分市大字毛井字仲屋外	大分土木事務所長	道路	古墳~平安	57条6	188
府内城・城下町	大分市中央町1丁目15番外	民間	その他の建物	中世~近世	57条2	177
横田遺跡群	直入郡萩町大字吉良原740番地	萩町長	宅地造成	縄文	57条3	218
山の口遺跡	日田市大字山田字山ノ口998番外1号	民間	その他の開発	縄文~弥生	57条2	225-254
鹿山遺跡群	佐伯市赤島町5601-1	民間	区画整理	古墳~近世	57条2	189
中世大友城下町跡	大分市六塔北町4450-1外	大分県知事	鉄道	古墳	57条3	82
上野遺跡群	大分市上野丘1丁目510番6	個人	住宅	中世	57条2	—
上野遺跡群	大分市上野丘西10-18	個人	住宅	中世	57条2	—
徳成遺跡	日田市大字友田字柳瀬213株地3外	個人	道路	弥生~近世	57条2	268
日田桑里遺跡	日田市吹上町30	大分県知事	学校	中世	57条3	—
古田所遺跡群	大分市大字古田所字観瀨242番1外	民間	その他の建物	弥生~奈良~平安	57条2	—
宇土遺跡	日田郡大瀬町大字五馬市字福ノ木1702番2	民間	その他の開発	旧石器~古墳	57条2	227
多武地遺跡(第76次調査)	大分市大字横尾2969	大分市長	区画整理	弥生	57条3	172
日田桑里遺跡	日田市南元町43	個人	その他の建物	奈良~近世	57条2	—
横田ヶ丘遺跡	日田市大字小迫625番地-1外	日田市長	その他の建物	縄文~弥生	57条3	249
東力ヶ原遺跡	速見郡山香町大字久木野字東力ヶ原	大分工事事務所長	その他の開発	縄文	57条3	53
鹿岳遺跡	南郷郡都井村大字宇津々1754	個人	学術調査	旧石器	57条1	—
南石原遺跡	別府市石原西4丁目1164外	個人	住宅	弥生	57条2	68
安国寺遺跡	東国東郡国東町大字安国寺	大分県知事	河川	弥生~古墳	57条3	49
中世大友城下町跡	大分市御町2丁目3202-2	民間	その他の建物	中世	57条2	124
中世敷遺跡(寺の前地)	宇佐市大字上田字寺の前1171-2外	民間	宅地造成	古墳	57条2	14
上野遺跡群	大分市上野丘1丁目494-1	個人	住宅	奈良~中世	57条2	—
下郡遺跡群	大分市大字下郡字長原824-2外	大分市長	区画整理	縄文~近世	57条3	125
定賢遺跡・清田遺跡	中津市大字定賢外	大分県知事	農業開墾	奈良~平安	57条3	24-25-29
府内城・城下町	大分市中央町2丁目156番地	民間	その他の建物	近世	57条2	115
上野遺跡群	大分市上野ヶ丘西410番地	個人	その他の建物	弥生	57条2	—
瓦塚遺跡	宇佐市大字西日市字瓦塚20-1	民間	宅地造成	古墳~奈良	57条2	5
日田桑里遺跡	日田市大字三和字内小杉18-1	個人	宅地造成	奈良~近世	57条2	—
長者原遺跡	日田市大字小山字神楽195-2	個人	宅地造成	旧石器~近世	57条2	301
日田桑里遺跡	日田市田島1丁目148外	個人	宅地造成	奈良~近世	57条2	259-291



遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代	根拠	掲載番号
下飯坂遺跡	直入郡飯町大字藤原字飯坂33番1	民間	その他の建物	中世	57条2	220
府内城・城下町	大分市中央町1丁目59-1	民間	その他の建物	近世	57条2	115
友田遺跡	速見郡日出町大字藤原字友田2257番8外	日出町土地開発公社	その他の建物	弥生・古墳	57条3	59
府内城・城下町	大分市長根町1丁目1427	個人	その他の建物	中世・近世	57条2	139
日田桑里遺跡(一畑田地区)	日田市大字三和字大塚2477番地11外	民間	宅地造成	縄文～近世	57条2	257・283
日田桑里遺跡	日田市大字三和字当根町12-1外	民間	宅地造成	古墳～近世	57条2	286
沢遺跡	大分市砂見2丁目310番地外	民間	その他の建物	弥生～古墳	57条2	142
中原敷遺跡	宇佐市大字上田170-11外	宇佐市長	道路	古墳・中世	57条3	15
末行遺跡	別府市石垣東5丁目1373番地	個人	住宅	弥生	57条2	69
日田桑里遺跡(大塚地区)	日田市田島1丁目144番地-1外	個人	住宅	弥生～近世	57条2	258・259・282
一尺屋下溝石棺	北海部郡佐賀岡町大字一尺屋字下溝2993番地	個人	その他の開発	古墳	57条5	—
御輪遺跡	宇佐市大字北字宇佐東ノ宮外	大分県宇佐病院振興局	道路	弥生・古墳	57条3	6
日田桑里遺跡	日田市吹上町1346番1	民間	宅地造成	奈良～近世	57条2	—
多武毛遺跡	大分市大字横地2860	大分市長	区画整理	弥生	57条3	173
府内城・城下町	大分市都町1丁目122番地	民間	その他の建物	近世	57条2	141
浅水遺跡	大野郡三重町大字成瀬字井上原3016番地	個人	農業関連	弥生	57条2	217
玉沢地区桑里跡	大分市大字木上字跡手48-2外	民間	その他の開発	縄文～中世	57条2	—
多武毛遺跡(第77次調査)	大分市大字横地2868	民間	土地区画	弥生	57条3	173
日高遺跡	日田市大字日高2281外	民間	農業関連	弥生・古墳	57条2	288
日田桑里遺跡(成宜園地区)	日田市大字清豆田字中城	大分県知事	電気	奈良～近世	57条3	244
山ノ上遺跡	宇佐市大字金原字山ノ上117	民間	その他の建物	平安	57条2	18
古国府遺跡群(羽黒遺跡)	大分市大字羽黒字養良田120-1外	民間	その他の建物	古墳～平安	57条2	—
後遺跡	日田市大字三和(里)	大分県知事	農業関連	弥生～奈良	57条3	255
府内城・城下町	大分市中央町1丁目78-1外	民間	その他の建物	近世	57条2	115
下自在・南遺跡	大野郡練方町大字下自在48番地1外	三重土木事務所長	道路	縄文	57条3	196
杉ノ遺跡	日田郡天瀬町大字五馬市字杉ノ2384-4	大野町長	その他の建物	旧石器・弥生	57条3	229・230
大肥桑里祝原地区	日田市大字夜明字道外1566外	大分県知事	農業関連	縄文・弥生	57条3	243
会所宮遺跡	日田市大字田島字會ヶ道729-5	民間	宅地造成	縄文～奈良・中世	57条2	290
日田桑里遺跡	日田市大字流里字榊町1150番地8	個人	その他の建物	奈良～近世	57条2	293
竜千寺遺跡(金ヶ城・加納部)	大野郡練方町大字上冬原字産下488-1外	大分県知事	農業関連	旧石器・弥生・中世	57条3	193
古国府遺跡群	大分市大字羽黒字石明930番1	民間	宅地造成	古墳～中世	57条2	—
中世大友城下町跡	大分市昭徳町3丁目4415番1外	個人	住宅	中世・近世	57条2	104・108
上自在・南遺跡群(土佐穴部)	大野郡練方町大字上自在字田輪76番地外	三重土木事務所長	道路	縄文・古墳	57条3	195
高尾城跡	大野郡練方町大字下自在157番地	練方町長	学校	中世	57条3	192
大原寺遺跡	東国東郡東国町大字大原寺	国東土木事務所長	河川	弥生・中世	57条3	—
中世大友城下町跡	大分市北坪北3021-6外	個人	その他の建物	中世・近世	57条2	—
飯塚遺跡	東国東郡東国町大字鶴川外	民間	その他の建物	弥生・古墳	57条2	48
大友館跡	大分市昭徳町3丁目4400番地3外	個人	住宅	中世	57条2	83
日田桑里遺跡	日田市大字南豆田字フケ174-16	民間	その他の建物	奈良～中世	57条2	287
川島遺跡	宇佐市大字法鏡寺字川島550-1外	民間	その他の建物	弥生・古墳・近世	57条3	—
大塚遺跡群	大分市金池1丁目2444番地4	大分市長	土地区画	弥生・古墳・近世	57条3	—
毛丹遺跡B地区	大分市大字毛丹字仲瀬外	大分土木事務所長	道路	古墳・中世	57条3	—
大塚遺跡群	大分市東入道1丁目2487番地9外	大分市長	土地区画	弥生・古墳・近世	57条3	—
大塚遺跡群	大分市金池南1丁目2511番地3	大分市長	土地区画	弥生・古墳・近世	57条3	—
大友館跡	大分市昭徳町3丁目4400番地1	個人	その他の建物	中世	57条2	83

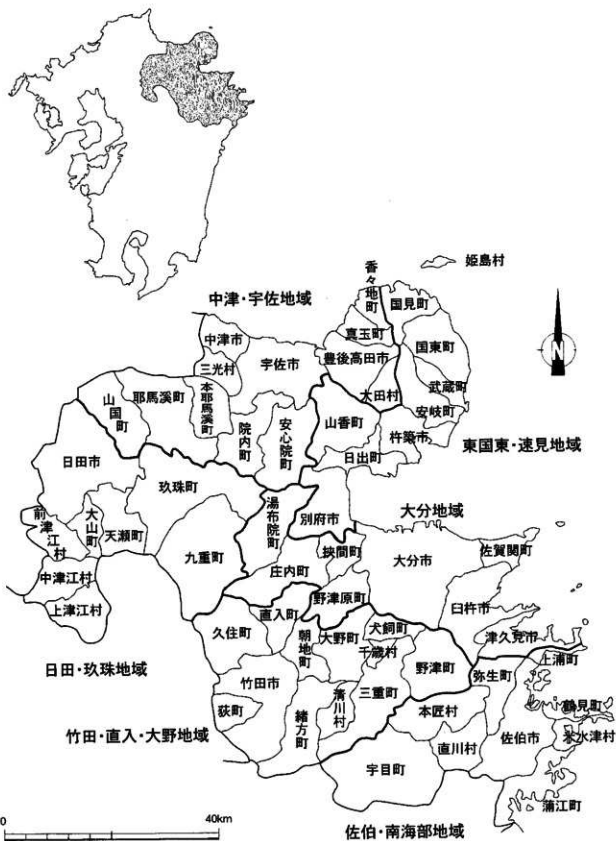
【98条の2】

通 跡 名	所 在 地	属 出	調査原因	時 代	掲載番号
飯塚遺跡	東區東部区東町大字越川字キノフ・外東	区東町教育委員会	その他の遺物	奈良・平安・中世	48
定留遺跡(赤松地区)	中津市大字定留965番地外	中津市教育委員会	農業関連	古墳～中世	29
瓦塚遺跡	宇佐市大字石田字野内63番地	宇佐市教育委員会	住宅	古墳・奈良	2・4
王子遺跡	遠見郡日田町大字野原4292-1外	大分県教育委員会	道路	中世	57-58
和泉第2遺跡	遠見郡日田町大字藤原字池田	大分県教育委員会	道路	弥生・中世	56
下保・西遺跡	大野郡野津町大字千藤659-1	大分県教育委員会	道路	中世	191
野村台遺跡	臼杵市大字野田字飛車丸544-1	大分県教育委員会	道路	縄文～中世	73
西本倉屋	東區東部安岐町大字西本	安岐町教育委員会	農業関連	奈良～近世	50
原指定史跡 臼杵城跡	臼杵市大字臼杵字丹生嶋91番	臼杵市教育委員会	遺跡整備	中世・近世	74
近地城跡	大野郡御代町大字寺泊847番地	御代町教育委員会	その他の発見	中世	211
史跡成久風跡	日田市大字野田字中城100-1外	日田市教育委員会	遺跡整備	近世	244
大塚遺跡	直入郡久住町大字有氏4346	久住町教育委員会	農業関連	弥生～古墳	198
青柳遺跡(第121次調査)	直入郡久住町久住974	久住町教育委員会	農業関連	中世～近世	197
下野遺跡	遠見郡日田町大字藤原字下野	大分県教育委員会	道路	縄文	54
小塚遺跡	宇佐市大字瓦木字小塚外	宇佐市教育委員会	住宅	古墳～平安	7
下野遺跡群(第120次調査)	大分市大字下野字止2871-1番地外	大分市教育委員会	区画整理	奈良	85
下野遺跡群(第121次調査)	大分市大字下野字小塚2573-1番地外	大分市教育委員会	区画整理	江戸	167
下野遺跡群	大分市大字下野字上止2135-1番地外	大分市教育委員会	区画整理	室戸	166
宇佐大宮司跡	宇佐市大字南字志田2148-1	宇佐市教育委員会	確認調査	中世・近世	8
北田遺跡	宇佐市大字南字在2136番地	宇佐市教育委員会	確認調査	中世	9
山崎谷遺跡	大分市大字松岡字山崎谷	大分県教育委員会	道路	古代	187
大塚遺跡	日田市大字田島字大塚148-2	日田市教育委員会	道路	奈良～近世	245-256-285
塩原桑原(C地点)	東區東部安岐町大字塩原	安岐町教育委員会	農業関連	奈良～中世	51
東中尾遺跡	大分市大字横尾2972	大分市教育委員会	道路	弥生・古墳	171
二日川遺跡	大分市大字横尾字高尾	大分県教育委員会	道路	平安	183
浮船遺跡	宇佐市大字松崎字浮船	大分県教育委員会	道路	平安・中世	20
木村遺跡	日田市大字渡智字木村886-1	日田市教育委員会	宅地造成	中世・近世	246
高瀬遺跡	日田郡天網町大字翠田字高瀬1753	天網町教育委員会	道路	旧石器	224
西堂遺跡	大分市大字松岡字向原西外	大分県教育委員会	道路	中世・近世	179-180
毛井遺跡(A地区)	大分市大字毛井寺の前	大分県教育委員会	道路	古代・中世	188
跡内城・城下町(第12次調査)	大分市大手町1丁目1367外	大分市教育委員会	共同住宅	戦国・江戸	176
宇佐神宮境内	宇佐市大字南字在2859番地	宇佐市教育委員会	その他の建物	奈良～近世	10
法蔵寺境内跡	宇佐市大字法蔵寺178番地	宇佐市教育委員会	住宅	奈良～近世	12
別所遺跡	宇佐市大字別所字藤30-1外	宇佐市教育委員会	道路	弥生～平安・近世	3・16
日田桑原遺跡(成宜園地区)	日田市大字南宮田字中央	日田市教育委員会	その他の発見	近世	244
吹上遺跡	日田市大字友田字上原1256-2	日田市教育委員会	学術研究	弥生	248
日田桑原遺跡(上手地区)	日田市大字西宮田字上手48番2	日田市教育委員会	宅地造成	奈良～近世	247-260-286
中津城下町遺跡	中津市二ノ丁1405外	中津市教育委員会	道路	近世	27
下野遺跡群(第123次調査)	大分市大字下野字北0819-1番地外	大分市教育委員会	区画整理	弥生	169
多武尾遺跡(第76次調査)	大分市大字横尾2969	大分市教育委員会	区画整理	弥生	172
元宮遺跡	日田市大字西宮田字堂園604-1	日田市教育委員会	その他の建物	中世～近世	251-271-284-289
天満古墳群(1号墳)	日田市大字小道字天神山1580外	日田市教育委員会	確認調査	古墳	250
台ノ原遺跡	宇佐市大字朝日市3305番地	宇佐市教育委員会	住宅	弥生・古墳	17
朝日ヶ丘遺跡	日田市大字小道2025番地1外	日田市教育委員会	宅地	縄文・弥生	249
松岡古墳群	大分市大字松岡字虫喰谷7005-1外	大分市教育委員会	宅地造成	奈良	86
山田遺跡	日田郡天網町大字翠田字山田	天網町教育委員会	農業関連	旧石器・縄文・中世・近世	228
中津大友町内城下町跡(第5次調査)	大分市北町北町4450-1外	大分県教育委員会	鉄道	中世	82

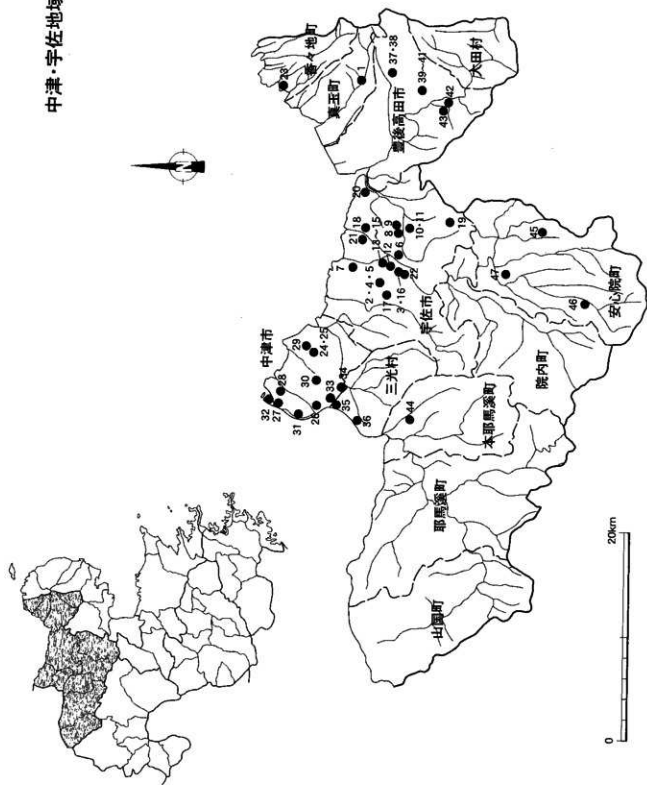
遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代	掲載番号
東方ヤノ原遺跡	遠見郡山香町大字久木野尾字東方ノ原2002-26	大分県教育委員会	その他の開発	縄文	53
中屋敷遺跡	宇佐市大字上田384番地	宇佐市教育委員会	住宅	弥生・古墳・中世	13
飯山遺跡群	佐伯市黒島町5601-1外	佐伯市教育委員会	区画整理	古墳・近世	189
元石遺跡(第3次調査)	日田市大字求来里字堂園607-2外	日田市教育委員会	その他の建物	縄文～古墳・中世・近世	253
府内城・城下町(第13次調査)	大分市中央1丁目15番外	大分市教育委員会	その他の建物	中世・近世	177
中屋敷遺跡	宇佐市大字上田	宇佐市教育委員会	道路	弥生・古墳・中世	13-14
行石原新南古墳	東国東郡武蔵町大字赤原	大分県教育委員会	遺跡	古墳	71-72
安国寺遺跡	東国東郡国東町大字安国寺	大分県教育委員会	河川	弥生	49
瓦塚遺跡	宇佐市大字四日市字瓦塚20-1外	宇佐市教育委員会	宅地造成	古墳・奈良	5
中屋敷遺跡(寺の前地区)	宇佐市大字上田字寺の前171-2外	宇佐市教育委員会	宅地造成	古墳	14
山ノ神谷遺跡	唐入郡萩町大字桑木字天所317番地	萩町教育委員会	道路	弥生	219
大友館跡(第3次調査)	大分市昭徳町3丁目4392-1	大分市教育委員会	遺跡整備	戦国	83
野村台遺跡(田井ヶ池地区)	臼杵市大字野田字野井ヶ池	大分県教育委員会	道路	縄文～中世	73
家野遺跡	臼杵市大字家野字立平1391-2	臼杵市教育委員会	その他の建物	縄文～古墳・近世	76
宇佐神宮境内遺跡	宇佐市大字南宇佐9番地	宇佐市教育委員会	現状変更(住宅)	平安～近世	11
正覚寺遺跡	宇佐市大字正覚寺255番地外	宇佐市教育委員会	道路	中世	19
山ノ口遺跡	日田市大字山向字山ノ口998番地	日田市教育委員会	その他の建物	縄文・弥生	254
大友館跡	大分市昭徳町3丁目4401番地2	大分市教育委員会	その他の開発	戦国	83
大友館跡	大分市昭徳町3丁目4428-1	大分市教育委員会	その他の開発	戦国	83
真堂遺跡	大分市大字松岡字真堂	大分県教育委員会	道路	中世・近世	179-180
中屋敷遺跡	宇佐市大字上田170-11外	宇佐市教育委員会	道路	古墳・中世	15
城前遺跡	西国東郡真玉町大字城前フチ	大分県教育委員会	道路	中世	1
玉沢地区委須跡	大分市大字玉沢長道838番地外	大分市教育委員会	その他の建物	縄文～中世	178
別府遺跡	宇佐市大字別府27	宇佐市教育委員会	宅地造成	弥生～奈良	16
御穂遺跡	宇佐市大字北宇佐字宇ノ宮外	宇佐市教育委員会	道路	弥生・古墳	6
三和教団遺跡	日田市大字三和字大塚2477-11	日田市教育委員会	宅地造成	縄文～近世	257-283
富貴寺遺跡	豊後高田市大字藤字東	大分県教育委員会	河川	中世	37-38
定南遺跡	中津市大字定南1064番地外	中津市教育委員会	農業関連	古墳～平安	24-25
杉ノノ遺跡	日田郡天瀬町大字山崎市字杉ノノ2384-4外	天瀬町教育委員会	その他の建物	旧石器・弥生・近世	229-230
大肥原里(祝取地区)	日田市大字夜明字外1566外	日田市教育委員会	農業関連	縄文・弥生	243
山ノ上遺跡	宇佐市大字金屋字山ノ上117番地	宇佐市教育委員会	その他の開発	平安	18
毛井遺跡	大分市大字毛井	大分県教育委員会	道路	古墳	12年度調査
真堂遺跡	大分市大字松岡字真堂	大分県教育委員会	道路	中近世	179-180
高尾城跡	大野郡穂方町大字輪丸2387-4外	穂方町教育委員会	学校	中世	192
多武尾遺跡(第77次調査)	大分市大字横尾2860	大分市教育委員会	区画整理	弥生・古墳・中世	173
多武尾遺跡(第78次調査)	大分市大字横尾2869-1	大分市教育委員会	区画整理	弥生・古墳・中世	174

### III. 各遺跡の調査概要

大分県域を、教育事務所管内にしたがって6地域に分け掲載していく。



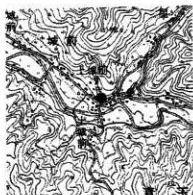
中津・宇佐地域



No.	1	遺跡名	城前遺跡	所在地	真玉町大字城前字フチ
調査原因	県道赤根真玉線道路改良工事			調査期間	平成11年9月6日～12月24日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	小柳和宏
調査面積	700㎡	時期	13世紀～16世紀	遺物の保管	大分県教育庁文化観文化財資料室

## 位置

国東半島西部の真玉川河口から、半島中央部へ向かって5kmほど上流へさかのぼった河川沿いの丘陵地裾部に遺跡はある。調査前は、数基の五輪塔や岩屋のような施設が見受けられる程度であったが、道路工事の計画により数年前に丘陵中位のテラスから石造物を隣接の寺院に降ろしたことがわかったため、調査対象地としたものである。



城前遺跡(1/25,000「昔々地」[陶子山])

## 遺構

丘陵裾部に数段のテラスを作り、そこに墓穴を穿ち石塔を造立した墓地であることがわかった。墓穴は一辺40cmほどの方形のものと、長さ1m、幅50cmほどの長方形のもの2種あるが、大部分は2基が並んでセットとなっている。その内数基からは焼骨が検出されている。

また、裾部の平地には丘陵から直行して、幅4m、深さ2mの溝が確認された。

## 遺物

墓穴の中からは、流れ込んだ状況で土器片が出土している。細片で時期を決しがたいが14世紀前後であろう。また、溝からは瓦器、土器、鉄滓などが出土している。時期は13世紀から14世紀前半である。また、石造物には年号を記したものはないが、鎌倉時代後半から戦国期までのものが認められる。

## まとめ

中世の墓地で、これほどの規模で石塔と下部施設がセットで検出されたのは初めてである。特に注目されるのは、墓穴2基で1セットになることで、夫婦の墓と考えられる。中世の家族史を考える上でも貴重な資料となろう。また、溝は寺院、または館の堀と考えられる。中世真玉氏との関連を考える必要がある。

(小柳和宏)



調査区全景

No.	2	遺跡名	瓦塚遺跡(第7次調査)	所在地	宇佐市大字石田
調査原因	住宅建築	調査期間	平成11年4月26日～8月10日	調査担当者	佐藤良二郎・川谷 浩
調査機関	宇佐市教育委員会	遺物の保管	宇佐市文化財資料室		
調査面積	約500㎡	時期	古墳～平安		

## 位置

瓦塚遺跡は、国道10号と古代官道が推定されている市道四日市樋田線との間に広がる微高地上に立地する。

## 遺構

7次調査では、区画状の溝(SD-2)が確認された6次調査区を拡張する調査を実施した。SD-2(幅3～4m、深さ2m)の東側より掘立柱建物跡(SB-1)を検出した。8次調査では、7次調査区の北西側隣接地で2本のトレンチを設定し、遺跡の広がりを探索した結果、小柱穴などが確認できた。西側の9次調査では、4次調査などで発見されたSD-1の延長部分と考えられる溝などが確認できた。

## 遺物

SD-2より、豊前国府跡出土のものと同類似した老司系文様単弁十九軒丸瓦3点、老司系属向唐草文軒平瓦1点のほかに多くの瓦片や8世紀後半～9世紀前半頃の土師器及び須恵器が出土した。SB-1の柱穴より遺物の出土はなく、SD-1の延長と考えられる溝からは、8世紀前半頃の土師器や須恵器が出土した。

## まとめ

老司系軒丸瓦は、1次調査区の溝から1点、3次調査区の溝などから3点出土している。また市内の古代寺院跡では出土していないことなどから、瓦塚遺跡は古代宇佐郡衙に関連した遺跡である可能性が考えられている。

今後は、官衙的内容の遺物が出土する主要遺構群の探索を継続して行い、郡衙などとの関係を明らかにすることが急務である。

(川谷 浩)

## 文献

川谷 浩『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』Ⅷ 宇佐市教育委員会 2000



瓦塚遺跡(第7次調査)  
(1/25,000[宇佐])



瓦塚遺跡調査区位置図

No.	3	遺跡名	別府遺跡(瀬社地区・下居屋敷地区)	所在地	宇佐市大字別府
調査原因		国道387号改良工事		調査期間	平成11年7月21日～平成12年3月31日
調査機関		宇佐市教育委員会		調査担当者	川谷 浩・江藤和幸
調査面積	約1,500㎡	時期	弥生～近世	遺物の保管	宇佐市文化財資料室

## 位置

宇佐市の中央部にある駅館川左岸の自然堤防上に立地する。調査区は、北側の微高地を瀬社地区南側の鞍部を下居屋敷地区とした。

## 遺構

瀬社地区では、弥生時代後期の竪穴住居跡26軒・溝4条・土坑4基・古墳時代中期から後期の竪穴住居跡5軒、そして奈良～平安時代の掘立柱建物跡4棟などが重複した状態で検出された。

SB-1は、桁行3間(5.7m)×梁間2間(4.4m)

SB-2は、桁行2間(5.0m)×梁間2間(4.3m)

SB-3は、桁行は不明であり、梁間2間(4.3m)

SB-4は、桁行5間(11.5m)×梁間3間(7.0m)

SB-3以外は、南北にほぼ一列に並んでおり、いずれも柱穴の掘り方が1m前後と大きい。

下居屋敷地区では、弥生時代後期の竪穴住居跡1軒、土坑1基、また16～18世紀頃と考えられる石組を伴う幅4mの溝・井戸・埋塞等が発見された。

## 遺物

弥生後期の竪穴住居跡からは、甕・壺・石包丁など。溝からは、甕・壺・高坏・器台など。古墳時代の竪穴住居跡からは、土師器や須恵器など。石組を伴う溝から、瓦質土器などが出土した。

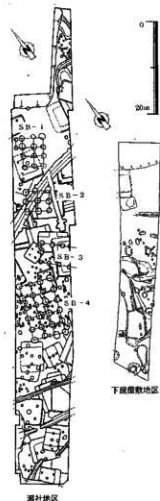
## まとめ

瀬社地区で発見された大型建物跡は、柱の大きさや建物の規模のほかに、『宇佐八幡宮弥勒寺建立縁起』等の文献より宇佐郡衛の正倉などの可能性が考えられる。下居屋敷地区で発見された石組を伴う溝は、南側の上居屋敷地区でも確認されており、16～18世紀頃の屋敷跡に伴う遺構とも考えられる。

(川谷 浩)



別府遺跡(瀬社地区・下居屋敷地区)  
(1/2,500[宇佐])



瀬社地区

別府遺跡(瀬社地区・下居屋敷地区)  
遺構配置図



No.	4	遺跡名	瓦塚遺跡(第7・8次調査)		所在地	宇佐市大字石田野内62	
調査原因	重要遺跡確認調査				調査期間	平成11年4月26日～8月10日	
調査機関	宇佐市教育委員会				調査担当者	川谷 浩	
調査面積	500㎡	時期	古墳・古代		遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
竪立柱建物1 溝1		古瓦・須恵器・土師器			集落跡		
関係文献	川谷 浩「瓦塚遺跡」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』選 宇佐市教育委員会 2000						
No.	5	遺跡名	瓦塚遺跡(第9次調査)		所在地	宇佐市大字四日市市瓦塚20-1	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成11年11月10日～12月6日	
調査機関	宇佐市教育委員会				調査担当者	佐藤良二郎	
調査面積	3,000㎡	時期	古墳・古代		遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
溝1		古瓦・須恵器・土師器			集落跡		
関係文献	川谷 浩「瓦塚遺跡」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』選 宇佐市教育委員会 2000						
No.	6	遺跡名	御幡村際遺跡		所在地	宇佐市大字北宇佐	
調査原因	重要遺跡確認調査				調査期間	平成12年1月19日～3月31日	
調査機関	宇佐市教育委員会				調査担当者	佐藤良二郎	
調査面積	250㎡	時期	弥生		遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
竪穴式住居跡2 溝2		須恵器・土師器			集落跡		
関係文献	佐藤良二郎「御幡村際遺跡」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』選 宇佐市教育委員会 2000						
No.	7	遺跡名	小塚遺跡(第16次調査)		所在地	宇佐市大字荒木字小塚465-4	
調査原因	重要遺跡確認調査				調査期間	平成11年6月1日～6月21日	
調査機関	宇佐市教育委員会				調査担当者	佐藤良二郎	
調査面積	65㎡	時期	弥生・古墳・平安		遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
竪穴式住居跡1 溝3		土師器・緑釉陶器			集落跡		
関係文献	佐藤良二郎「御幡村際遺跡」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』選 宇佐市教育委員会 2000						
No.	8	遺跡名	宇佐大宮司館跡		所在地	宇佐市大字南宇佐北田2148-1	
調査原因	重要遺跡確認調査				調査期間	平成11年6月3日～12月8日	
調査機関	宇佐市教育委員会				調査担当者	林 一也	
調査面積	420㎡	時期	中世・近世		遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
柱穴		陶磁器			館跡		
関係文献							

No. 9	遺跡名	北田遺跡			所在地	宇佐市大字南宇佐字北田2136	
調査原因	重要遺跡確認調査				調査期間	平成11年6月3日～12月8日	
調査機関	宇佐市教育委員会				調査担当者	江藤和幸	
調査面積	700㎡	時期	中世		遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
掘立柱建物1		土師器			集落跡		
関係文献							
No. 10	遺跡名	宇佐神宮境内			所在地	宇佐市大字南宇佐2859	
調査原因	神宮庁増設				調査期間	平成11年7月8日～12月9日	
調査機関	宇佐市教育委員会				調査担当者	江藤和幸	
調査面積	130㎡	時期	古代～近世		遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
礎石建物跡・溝		土師器・陶磁器・古瓦			寺院跡		
関係文献							
No. 11	遺跡名	宇佐神宮境内			所在地	宇佐市大字南宇佐字宮迫9	
調査原因	個人住宅建設				調査期間	平成11年11月30日～平成12年3月31日	
調査機関	宇佐市教育委員会				調査担当者	江藤和幸	
調査面積	200㎡	時期	中世・近世		遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
柱穴		瓦質土器・陶磁器			寺院跡		
関係文献							
No. 12	遺跡名	法鏡寺南寺跡			所在地	宇佐市大法鏡寺178	
調査原因	個人住宅建設				調査期間	平成11年7月8日～7月15日	
調査機関	宇佐市教育委員会				調査担当者	林 一也	
調査面積	95㎡	時期	古墳・奈良		遺物の保管	—	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし		なし			寺院跡		
関係文献							
佐藤良二郎「御嶋村原遺跡」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』Ⅹ 宇佐市教育委員会 2000							
No. 13	遺跡名	中屋敷遺跡(東調査区)			所在地	宇佐市大字上田字赤土384	
調査原因	重要遺跡確認調査				調査期間	平成11年6月3日～12月8日	
調査機関	宇佐市教育委員会				調査担当者	林 一也	
調査面積	400㎡	時期	古墳～中世		遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
掘穴住居跡		土師器・須恵器			集落跡		
関係文献							
川谷 浩「中屋敷遺跡4次調査」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』Ⅹ 宇佐市教育委員会 2000							

No.	14	遺跡名	中屋敷遺跡(西調査区)	所在地	宇佐市大字上田字寺の前171-2~4
調査原因	宅地造成			調査期間	平成11年11月10日~12月6日
調査機関	宇佐市教育委員会			調査担当者	江藤和幸
調査面積	2,449㎡	時期	古墳~中世	遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴		土師器		集落跡	
関係文献	川谷 浩「中屋敷遺跡4次調査」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』 宇佐市教育委員会 2000				
No.	15	遺跡名	中屋敷遺跡(南5次調査)	所在地	宇佐市大字上田170の11外
調査原因	市道造成			調査期間	平成11年11月1日~平成12年3月31日
調査機関	宇佐市教育委員会			調査担当者	江藤和幸
調査面積	2,840㎡	時期	古墳~中世	遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡 竪立柱建物等		土師器・瓦器		集落跡	
関係文献					
No.	16	遺跡名	別府遺跡(第14次調査)	所在地	宇佐市大字別府27
調査原因	重要遺跡確認調査			調査期間	平成12年1月19日~3月31日
調査機関	宇佐市教育委員会			調査担当者	江藤和幸
調査面積	100㎡	時期	弥生・古墳・奈良	遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡		土師器・須恵器		集落跡	
関係文献	江藤和幸「別府遺跡14次調査」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』 宇佐市教育委員会 2000				
No.	17	遺跡名	台ノ原遺跡(第9次調査)	所在地	宇佐市大字四日市3305
調査原因	重要遺跡確認調査			調査期間	平成11年9月17日~9月30日
調査機関	宇佐市教育委員会			調査担当者	川谷 浩
調査面積	200㎡	時期	弥生	遺物の保管	—
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴		なし		集落跡	
関係文献	川谷 浩「台ノ原遺跡」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』 宇佐市教育委員会 2000				
No.	18	遺跡名	山ノ上遺跡	所在地	宇佐市大字金屋字山の上117
調査原因	無線基地局新設			調査期間	平成12年3月1日~3月9日
調査機関	宇佐市教育委員会			調査担当者	佐藤良二郎
調査面積	200㎡	時期	弥生	遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴・土坑		土師器・白磁		集落跡	
関係文献					

No.	19	遺跡名	正覚寺遺跡		所在地	宇佐市大字正覚寺255外	
調査原因	市道改良				調査期間	平成11年12月1日～平成12年3月31日	
調査機関	宇佐市教育委員会				調査担当者	林 一也	
調査面積	1,000㎡	時期	古代～近世		遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
七坑・溝			古瓦・溝		寺院跡		
関係文献							
No.	20	遺跡名	浮殿遺跡		所在地	宇佐市大字松崎	
調査原因	県道中津高田線歩道設置工事				調査期間	平成11年6月10日～6月23日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	栗原 真	
調査面積	40㎡	時期	中世		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
不定形土坑6			中世土師器		神社遺構		
関係文献							
No.	21	遺跡名	井手神遺跡・上川原遺跡		所在地	宇佐市大字畑田字井手神・上川原	
調査原因	都市計画街路柳ヶ浦上持田線道路改良				調査期間	平成11年7月23日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	後藤一重	
調査面積	11,200㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
一部で堀の痕状遺構			——		——		
関係文献							
No.	22	遺跡名	閑地区		所在地	宇佐市大字閑	
調査原因	県営住宅新築工事				調査期間	平成12年3月29日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	後藤一重	
調査面積	約200㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		——		
関係文献							
No.	23	遺跡名	羽根地区		所在地	香々地町大字羽根	
調査原因	国道213号地域経済緊急道路整備事業				調査期間	平成11年6月29日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	後藤一重	
調査面積	約7,000㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		——		
関係文献							

No.	24	遺跡名	定留遺跡(田畑地区)	所在地	中津市大字定留1064外
調査原因	農村活性化住環境整備事業			調査期間	平成11年7月21日～10月15日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	花崎 徹
調査面積	15ha	時期	古代	遺物の保管	中津市歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
独立建築物・溝		須恵器・土師器		古代の集落	
関係文献 「定留遺跡・田畑遺跡・台遺跡」『中津地区遺跡群発掘調査概報』Ⅻ 中津市教育委員会 2000					
No.	25	遺跡名	定留遺跡(田畑地区)	所在地	中津市大字定留1053外
調査原因	農村活性化住環境整備事業			調査期間	平成11年11月24日～平成12年3月22日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	花崎 徹
調査面積	4,000㎡	時期	古墳～中世	遺物の保管	中津市歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居・独立建築物 溝・土坑		土師器・須恵器		溝は水田に関連するものと思われる。竪立・竪穴住居は古代の集落である。	
関係文献					
No.	26	遺跡名	台遺跡	所在地	中津市大字相原3032-35
調査原因	病院建設			調査期間	平成11年11月19日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	花崎 徹
調査面積	3,000㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		_____	
関係文献 「定留遺跡・田畑遺跡・台遺跡」『中津地区遺跡群発掘調査概報』Ⅻ 中津市教育委員会 2000					
No.	27	遺跡名	中津城下町遺跡(殿町地区)	所在地	中津市殿町1405外
調査原因	県道外馬場筋欠常線道路改良工事			調査期間	平成11年8月1日～12月22日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	高崎 幸子
調査面積	2,080㎡	時期	近世	遺物の保管	中津市歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑・柱穴・石列・溝等		近世陶磁器・土器・瓦・銅製品等		城下町の一面で旧武家屋敷の通りに面した前面部分にあたる。	
関係文献					
No.	28	遺跡名	蛸瀬地区	所在地	中津市蛸瀬403外
調査原因	市道中殿大塚線開通工事			調査期間	平成12年1月24日～2月15日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	高崎 幸子
調査面積	4,320㎡	時期	近世・近代	遺物の保管	中津市歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
廃棄土坑・溝		近世陶磁器少量		近世の廃棄土坑を検出したが、攪乱が著しく、調査の必要なしとした。	
関係文献					

No. 29	遺跡名	定留遺跡(赤松地区)	所在地	中津市定留995外	
調査原因	農村活性化住環境整備事業		調査期間	平成11年4月1日～8月31日	
調査機関	中津市教育委員会		調査担当者	高崎孝子	
調査面積	13,000㎡	時期	古代・中世	遺物の保管	中津市歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
孤立柱建物・土坑・溝 吸穴住居・墓		古代の土師器・須恵器・タコ壺 中世の瓦器類・銅鏡		古代海浜集落の中心的な建物群	
関係文献					
No. 30	遺跡名	大悟法地区	所在地	中津市大字大悟法787-2	
調査原因	市営住宅建設		調査期間	平成11年9月8日～9月14日	
調査機関	中津市教育委員会		調査担当者	高崎孝子	
調査面積	2,608㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					
No. 31	遺跡名	万田地区	所在地	中津市大字万田	
調査原因	県道豊前万田線道路改良		調査期間	平成11年8月5日	
調査機関	大分県教育委員会		調査担当者	後藤一重	
調査面積	約300㎡	時期	近現代	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
近現代の遺構あり		近現代の上器片		——	
関係文献					
No. 32	遺跡名	小祝地区	所在地	中津市大字小祝	
調査原因	県道鍋島小祝線道路改良工事		調査期間	平成11年8月6日	
調査機関	大分県教育委員会		調査担当者	後藤一重	
調査面積	約500㎡	時期	近現代	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
近現代の遺構あり		近現代の土器片		——	
関係文献					
No. 33	遺跡名	永添地区	所在地	中津市永添	
調査原因	県道円座中津線道路改良		調査期間	平成11年8月5日	
調査機関	大分県教育委員会		調査担当者	宮内克己	
調査面積	250㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					

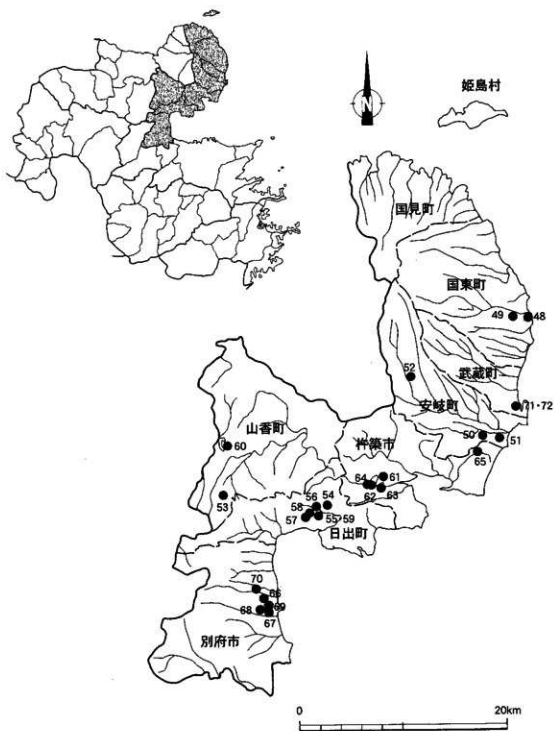
No.	34	遺跡名	加来地区	所在地	中津市加来
調査原因	県道17号中津線道路改良			調査期間	平成11年8月6日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	宮内克己
調査面積	約250㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					
No.	35	遺跡名	佐知久保畑遺跡	所在地	三光村大字佐知
調査原因	ショッピングセンター増床工事			調査期間	平成11年4月1日～5月14日
調査機関	三光村教育委員会			調査担当者	平田由美
調査面積	2,100㎡	時期	弥生～古墳時代	遺物の保管	三光村教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
住居跡9・土器溝14 溝状遺構22・土坑131 柱穴459		弥生時代の竈・壺などを中心に 須恵帯・土師器などが出土		上ノ原横穴墓群に埋葬された人々の生活した集落と考えられる。溝状遺構で区画された住居跡群など注目すべき遺構が確認された。	
関係文献					
No.	36	遺跡名	白木古墳3号墳	所在地	三光村大字白木
調査原因	遺跡確認調査			調査期間	平成12年2月7日
調査機関	三光村教育委員会			調査担当者	平田由美
調査面積	40㎡	時期	6世紀後半	遺物の保管	三光村教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
横穴式石室をもつ古墳		なし		すでに墳丘はなくなっており、石室がむき出しの状態であったため遺物などは検出されなかった。	
関係文献					
No.	37	遺跡名	富貴寺遺跡	所在地	豊後高田市大字藤
調査原因	蘇川火山砂防事業			調査期間	平成11年11月8日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約200㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴		中世土器		富貴寺に伴う東ノ坊跡か？	
関係文献					
No.	38	遺跡名	富貴寺遺跡(東地区)	所在地	豊後高田市大字藤字東
調査原因	蘇川火山砂防事業			調査期間	平成12年2月14日～3月14日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	約2,000㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴群		中世の土師質土器・青磁・白磁		寺院遺構？	
関係文献 栗原 真 染矢和徳 戸崎 文『富貴寺遺跡(東地区)』大分県教育委員会 2001					

No.	39	遺跡名	富貴寺(中田地区)	所在地	豊後高田市大字落字中田
調査原因	跡地区園場整備			調査期間	平成11年10月26日～平成12年2月18日
調査機関	豊後高田市教育委員会			調査担当者	岩男真吾
調査面積	130㎡	時期	中世	遺物の保管	豊後高田市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ビット・上墳		瓦器類・土師器片・青磁		_____	
関係文献 海老沢 真「豊後岡田染荘の調査」大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1986					
No.	40	遺跡名	富貴寺(前田地区)	所在地	豊後高田市大字落字前田
調査原因	跡地区園場整備			調査期間	平成11年10月26日～平成12年2月18日
調査機関	豊後高田市教育委員会			調査担当者	岩男真吾
調査面積	80㎡	時期	中世	遺物の保管	豊後高田市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ビット		瓦器類・土師器片		_____	
関係文献 海老沢 真「豊後岡田染荘の調査」大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1986					
No.	41	遺跡名	前田遺跡	所在地	豊後高田市大字落字前田
調査原因	跡地区園場整備			調査期間	平成11年10月26日～平成12年2月18日
調査機関	豊後高田市教育委員会			調査担当者	岩男真吾
調査面積	120㎡	時期	不明	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝・土坑		_____		_____	
関係文献 海老沢 真「豊後岡田染荘の調査」大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1986					
No.	42	遺跡名	関戸遺跡	所在地	豊後高田市大字真中宇関戸
調査原因	嶺峰地区園場整備			調査期間	平成11年8月30日～12月28日
調査機関	豊後高田市教育委員会			調査担当者	岩男真吾
調査面積	50㎡	時期	不明	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ビット・礎石		_____		_____	
関係文献 海老沢 真「豊後岡田染荘の調査」大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1986					
No.	43	遺跡名	松尾遺跡	所在地	豊後高田市大字嶺峰字松尾
調査原因	嶺峰地区園場整備			調査期間	平成11年8月30日～12月28日
調査機関	豊後高田市教育委員会			調査担当者	岩男真吾
調査面積	150㎡	時期	不明	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ビット		_____		_____	
関係文献 海老沢 真「豊後岡田染荘の調査」大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1986					



No.	44	遺跡名	下屋形遺跡		所在地	本耶馬祇町下屋形	
調査原因	興道宇佐耶馬祇線道路改良				調査期間	平成11年6月8日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	後藤一重	
調査面積	約200㎡	時期	中世		遺物の保管	—	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
若下の柱穴		なし			中世集落の一部の可能性を有するが、柱穴が数本のみで全容は不明		
関係文献							
No.	45	遺跡名	塔尾地区		所在地	安心院町大字塔尾	
調査原因	圃場整備				調査期間	平成11年8月24日～平成12年9月3日	
調査機関	安心院町教育委員会				調査担当者	ノ野勝教	
調査面積	10ha	時期	—		遺物の保管	—	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
—		—			—		
関係文献							
No.	46	遺跡名	水車前田遺跡		所在地	安心院町大字水車	
調査原因	圃場整備				調査期間	平成11年7月28日～8月5日	
調査機関	安心院町教育委員会				調査担当者	ノ野勝教	
調査面積	500㎡	時期	—		遺物の保管	—	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
孤立柱建物跡		—			—		
関係文献							
No.	47	遺跡名	安心院地区糸里跡		所在地	安心院町大字下市外	
調査原因	圃場整備				調査期間	平成11年7月15日～平成12年3月31日	
調査機関	安心院町教育委員会				調査担当者	ノ野勝教	
調査面積	1,500㎡	時期	弥生・中世		遺物の保管	安心院町教育委員会	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
土壌墓 孤立柱建物跡		青磁碗・鉄製品・須玖式土甕			中世の土壌墓を検出 現水田下1.5mで弥生土器のみ出土		
関係文献							

東国東・速見地域



No.	48	遺跡名	飯塚遺跡	所在地	国東町輪川字キルウ外
調査原因		東国東広域連合総合文化施設建設工事		調査期間	平成11年4月1日～9月1日
調査機関		国東町教育委員会文化財課		調査担当者	永松みゆき
調査面積	4,000㎡	時期	古代～中世	遺物の保管	国東町歴史民俗資料館

## 位置

国東のほぼ中央に流れている田深川河口に近く飯塚城跡遺跡の東緩斜面標高3～5mに位置している。

## 遺構

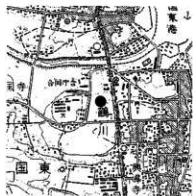
調査区の北西部に建物跡・柵列・溝状遺構などが検出され、遺構に囲まれた東側に泥湿地包含層がある。泥湿地への落ち込み部には、落ちに沿った形で杭列が出土した。

## 遺物

遺構からは、黒色土器と土師器・須恵器などの細片が出土した。黒褐色泥湿地からは、木簡・斎串・呪符・木製品などと輸入陶磁器・石帯・墨書・刻書がある土師器・須恵器杯・布目瓦などが多く出土している。

陶磁器は、蛇の目高台の越州窯青磁碗がほぼ完形品で出土した。また緑釉柄片も出土している。

木簡には、田植えや稲刈り時期の日付けや作人の名前など、墨書土器には「稲万呂」「稲」、刻書土器には「大心」「田」などが記されていた。



飯塚遺跡(1/25,000「鶴川」)

## まとめ

平成4年度調査区に続く遺構が確認ができ、貴重で豊富な遺物が発見されたことは、国東の古代史解明の重要な資料となった。

(永松みゆき)



遺物出土状況

No.	49	遺跡名	安国寺遺跡	所在地	国東町大字安国寺字前田
調査原因	田深川河川改修工事			調査期間	平成11年11月29日～12月20日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約200㎡	時期	弥生時代	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝・土坑・竪棺		弥生土器		集落跡	
関係文献					
No.	50	遺跡名	西本地区	所在地	安岐町大字西本
調査原因	国場整備事業			調査期間	平成11年5月14日～7月9日
調査機関	安岐町教育委員会			調査担当者	松本啓子
調査面積	220㎡	時期	7世紀以降	遺物の保管	安岐町教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
糸里遺構（確認調査）		須恵器片		当地区は洪水が頻繁に起こる場所であることから、集落は形成されず、また水田経営は遺物から7世紀前後に始められたものと思われる。	
関係文献					
No.	51	遺跡名	塩原地区	所在地	安岐町大字塩原
調査原因	国場整備事業			調査期間	平成11年8月20日～8月31日
調査機関	安岐町教育委員会			調査担当者	松本啓子
調査面積	320㎡	時期	不明	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
糸里遺構（確認調査）		なし		土層より水田が埋没するのと同じ個所に作り直されたことが確認できたが、それらの明確な時期を確認するには至らなかった。	
関係文献					
No.	52	遺跡名	朝来地区	所在地	安岐町大字朝来
調査原因	高齢者活動促進施設建設			調査期間	平成12年7月2日
調査機関	安岐町教育委員会			調査担当者	松本啓子
調査面積	50㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	53	遺跡名	東カヤノ原遺跡	所在地	山香町大字久木野尾字東カヤノ原
調査原因	国道10号日出バイパス建設に伴う残土処理場			調査期間	平成11年9月29日～11月10日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一・江崎賢一
調査面積	5,000㎡	時期	縄文	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
陥穴		縄文土器		縄文時代前期のものと考えられる陥穴が、10基確認できた。	
関係文献					

No.	54	遺跡名	下野遺跡	所在地	日出町大字藤原字下野
調査原因	一般国道213号改良工事			調査期間	平成11年5月25日～11月4日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	吉田 寛・綿貫俊一・藤原由博
調査面積	約2,000㎡	時期	旧石器時代・縄文時代早期 弥生時代中期	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

## 位置

別府湾を一望できる南向きの丘陵の中腹に位置する。標高100m程で周辺よりやや小高くなっている。遺跡の南4.3kmの海岸付近には縄文時代早期の集落遺跡として有名な早水台遺跡がある。

## 遺構

縄文時代早期の遺構として陥穴1基・集石4基、弥生時代中期では住居跡2軒・土坑2基を検出した。

## 遺物

旧石器、縄文時代早期の押型文土器・無文土器・石器、弥生時代中期の下城式土器などが出土したが、縄文早期の土器が中心である。

## まとめ

旧石器時代：遺物は余り多くない。縄文時代早期とはレベル的に明確な差が無く、やや混在した状況で出土した。そのため両時期にはあまり大きな時間差がないと考えられる。

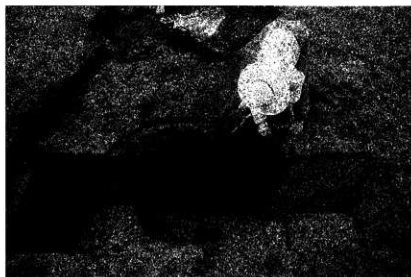
縄文時代早期：押型文土器の川原田式～手向山式が出土している。遺構が少ないのでキャンプサイト的な性格であると考えられる。

弥生時代中期：下城式を中心としているが、土坑からは須玖Ⅱ式に併行する壺も出土した。住居跡と土坑がそれぞれ2基ずつ検出され、一定の生活があったと考えられる。

(藤原由博)



下野遺跡(1/25,000[片装])



陥穴(縄文時代早期)

No.	55	遺跡名	和泉第1遺跡	所在地	日出町大字藤原字和泉
調査原因	一般国道10号日出バイパス建設			調査期間	平成11年7月14日～8月5日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	山本幸弘・松本康弘
調査面積	50㎡	時期	近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
近世墓		近世陶磁器・五輪塔		墓地	
関係文献					
No.	56	遺跡名	和泉第2遺跡	所在地	日出町大字藤原字池田
調査原因	一般国道10号日出バイパス建設			調査期間	平成11年6月14日～平成12年3月17日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	山本幸弘・松本康弘
調査面積	6,000㎡	時期	弥生・中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
野穴住居跡 溝状遺構		弥生土器・土師質土器 一石五輪塔等		弥生中期の集落および中世山城	
関係文献					
No.	57	遺跡名	仁王第1遺跡	所在地	日出町大字藤原字横津
調査原因	一般国道10号日出バイパス建設			調査期間	平成12年2月14日～2月15日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	山本幸弘・松本康弘
調査面積	2,500㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		明瞭な遺構がなく、遺物も認められなかった。	
関係文献					
No.	58	遺跡名	仁王第2遺跡	所在地	日出町大字藤原字横津
調査原因	一般国道10号日出バイパス建設			調査期間	平成11年7月26日～7月27日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	山本幸弘・松本康弘
調査面積	2,500㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		明瞭な遺構がなく、遺物も認められなかった。	
関係文献					
No.	59	遺跡名	友田遺跡	所在地	日出町大字藤原字友田
調査原因	保険福祉センター建設用地造成工事			調査期間	平成11年5月31日～6月4日
調査機関	日出町教育委員会			調査担当者	阿南慎久
調査面積	3,100㎡	時期	弥生・古墳時代	遺物の保管	日出町教育委員会社会教育課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
住居跡		弥生・古墳時代の土器 石包丁		調査区は2つの川に挟まれた平野であり、稲作を行うには適した地形と考えられる。弥生時代から古墳時代にかけての集落跡が良好な状態で残されている。	
関係文献					

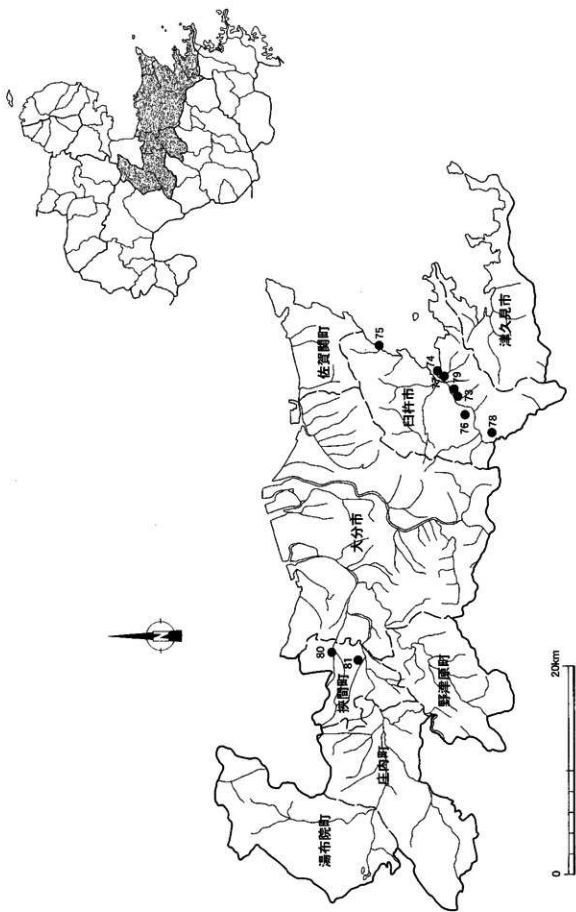
No.	60	遺跡名	久木野尾地区	所在地	山香町大字久木野尾
調査原因	県道久木野尾山浦線道路改良工事			調査期間	平成12年2月24日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約400㎡	時期	不明	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝状遺構		なし		畑の区画溝か	
関係文献					
No.	61	遺跡名	本庄地区	所在地	杵築市大字本庄
調査原因	杵築高等学校多目的競技場建設			調査期間	平成11年11月4日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約60㎡	時期	近現代	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
近現代の遺構		近現代の土器片		_____	
関係文献					
No.	62	遺跡名	中地区	所在地	杵築市大字中
調査原因	八坂川河川改修工事			調査期間	平成12年2月4日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約60㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		_____	
関係文献					
No.	63	遺跡名	八坂久保田遺跡	所在地	杵築市大字中(久保田地区)
調査原因	県営農村活性化住環境整備事業			調査期間	平成12年3月15日～3月30日
調査機関	杵築市教育委員会			調査担当者	平川信哉
調査面積	11ha	時期	_____	遺物の保管	杵築市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		土器片		遺物包含層が確認されたが工事による影響はないと判断される。	
関係文献					
No.	64	遺跡名	八坂中遺跡	所在地	杵築市大字中(中地区)
調査原因	県営農村活性化住環境整備事業			調査期間	平成12年3月22日～3月29日
調査機関	杵築市教育委員会			調査担当者	平川信哉
調査面積	25,000㎡	時期	平安・鎌倉	遺物の保管	杵築市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		土器片		遺物包含層が確認されたが工事による影響はないと判断される。	
関係文献					

No.	65	遺跡名	東光寺遺跡	所在地	杵築市大字横城
調査原因	土砂採取			調査期間	平成12年3月13日～3月14日
調査機関	杵築市教育委員会			調査担当者	平川信哉
調査面積	100㎡	時期	平安・鎌倉	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					
No.	66	遺跡名	石垣西地区	所在地	別府市石垣西10丁目3011・3012
調査原因	宅地造成			調査期間	平成11年4月5日～4月6日
調査機関	別府市教育委員会			調査担当者	永野康洋
調査面積	1,500㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		すでに造成により攪乱されており、遺構・遺物は検出されなかった。	
関係文献					
No.	67	遺跡名	四郎丸遺跡	所在地	別府市石垣東4丁目1086・1087・1090
調査原因	店舗付共同住宅建設			調査期間	平成11年6月18日
調査機関	別府市教育委員会			調査担当者	永野康洋
調査面積	997㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		すでに造成により攪乱されており、遺構・遺物は検出されなかった。	
関係文献					
No.	68	遺跡名	南石垣遺跡	所在地	別府市石垣西4丁目1164・1165
調査原因	共同住宅建設			調査期間	平成11年9月1日
調査機関	別府市教育委員会			調査担当者	永野康洋
調査面積	637㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		すでに造成により攪乱されており、遺構・遺物は検出されなかった。	
関係文献					
No.	69	遺跡名	末行遺跡	所在地	別府市石垣東5丁目1373
調査原因	個人住宅			調査期間	平成11年12月13日～12月16日
調査機関	別府市教育委員会			調査担当者	永野康洋
調査面積	391㎡	時期	弥生後期	遺物の保管	別府市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし(包含層)		弥生土器(壺・甕)		明確な遺構は検出されなかったが、遺物の出土状況から、隣接地の弥生後期の住居跡に関連するものと考えられる。	
関係文献					



No.	70	遺跡名	春木芳元遺跡		所在地	別府市大字北石垣字古寺1445-1	
調査原因	工場建設				調査期間	平成12年2月8日	
調査機関	別府市教育委員会				調査担当者	永野康洋	
調査面積	1,567㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし		なし			すでに造成により攪乱されており、遺構・遺物は検出されなかった。		
関係文献							
No.	71	遺跡名	行者原古墳群		所在地	武蔵町大字系原字行者原	
調査原因	国道213号道路改良工事				調査期間	平成11年9月17日～9月20日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	後藤一重	
調査面積	約10,000㎡	時期	古墳時代		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
古墳		土器片			直径20m程の円墳		
関係文献							
No.	72	遺跡名	行者原稲荷古墳		所在地	武蔵町大字系原字行者原	
調査原因	一般国道213号改良工事(系原工区)				調査期間	平成11年12月6日～平成12年1月19日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	坂本嘉弘	
調査面積	300㎡	時期	6世紀		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
直径約20mの円墳の周溝		須恵器の坏			上部に平壇部が残る6世紀代の直径約20mの円墳。右室は壘穴系の可能性が高い。主体部保存のため、工法変更を協議し、南側の墳裾部のみを調査した。		
関係文献							

# 大分地域



No.	73	遺跡名	野村台遺跡	所在地	白杵市大字野田
調査原因	国道502号(B区間)道路改良工事			調査期間	平成11年4月9日～平成12年3月31日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	甲斐寿義・槇島隆二
調査面積	5,500㎡	時期	縄文～古墳・中世・近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

## 位置

白杵川の中流域右岸の標高30mの阿蘇溶結凝灰岩台地上（飛車丸地区）とその南斜面（田井ヶ迫地区）に位置する。白杵側を挟んで北西に荒田遺跡、南西に清太郎遺跡が望める。



野村台遺跡(飛車丸地区・田井ヶ迫地区)  
(1/25,000[白杵])

## 遺構

### 飛車丸地区

- 溝状遺構（環壕・弥生末）
- 中世土壇墓2基（うち石組土壇墓1基）
- 住居跡1軒
- ピット100基以上
- 大型土坑2基
- 廃棄土坑10基

### 田井ヶ迫地区

- 横穴墓3基（7世紀中頃～後半）
- 近世土壇墓4基
- 階段状遺構等

## 遺物

### 飛車丸地区

縄文早期の石器・無文土器・押型文土器、弥生時代中期～終末の土器、中世の土師器・陶磁器・貨幣、近世の陶磁器・貨幣等

### 田井ヶ迫地区

縄文時代早期の土器、弥生時代中期の土器、7世紀中期から後半の須恵器、横穴墓の閉塞石（肥後型1基）、中世の土師器



田井ヶ迫地区3号横穴墓近景

## まとめ

飛車丸地区：台地の西端部で後世の削平を受けているが、縄文時代から近世に及ぶ遺構・遺物を検出した。特に弥生時代では白杵市の調査で確認されていた溝が環壕状にめぐることが判明した。

また、中世では立派な石組みの土壇墓や江戸時代の廃棄土坑と思われるものも確認でき、恒常的に人々が台地上で生活していたことがうかがわれる。

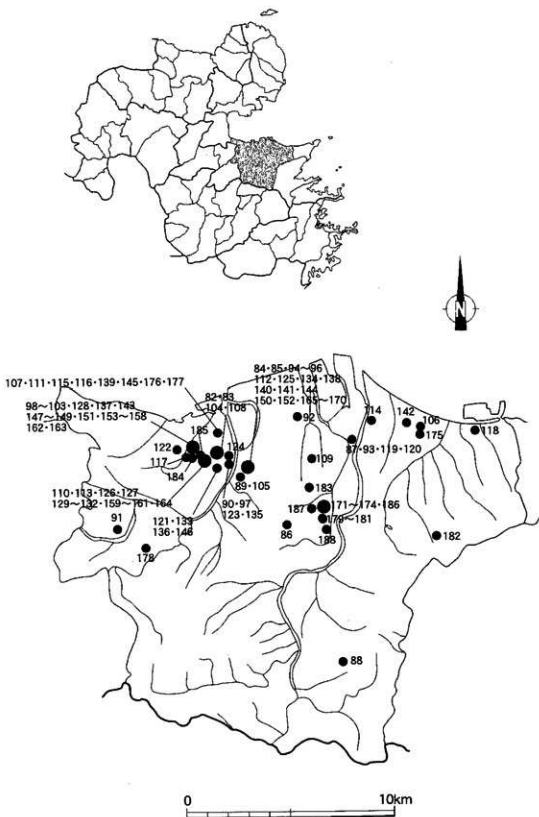
田井ヶ迫地区：横穴墓のうち1基は大分市木の上横穴墓群にみられるものとほぼ同じものが確認できた。閉塞石に盾を模したと思われる浮き彫りがあり肥後との関連が予想される。また、南西部に位置する清太郎遺跡との関連も考える必要がある。

(槇島隆二)

No.	74	遺跡名	泉指定史跡白杵城跡	所在地	白杵市大字白杵字丹生嶋
調査原因	史跡整備			調査期間	平成11年4月30日～平成12年3月31日
調査機関	白杵市教育委員会			調査担当者	神田高士・小倉 卓
調査面積	500㎡	時期	16世紀末～19世紀中頃	遺物の保管	白杵市文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
石垣・石組溝・便所		近世陶磁器・中近世土器		中世から近世にかけての城郭	
関係文献					
No.	75	遺跡名	嵐島遺跡	所在地	白杵市大字尾本字黒崎
調査原因	公園整備			調査期間	平成11年6月1日～10月31日
調査機関	白杵市教育委員会			調査担当者	神田高士・小倉 卓
調査面積	500㎡	時期	弥生～近世	遺物の保管	白杵市文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
埋土土坑(弥生) 廃棄土坑(古墳) 石敷遺構(弥生・近世)		弥生土器(安国寺系) 古式土師器 土縁(瀬戸内系)		瀬戸内地方と何らかの関わりをもつ漁労民の遺跡か	
関係文献					
No.	76	遺跡名	家野遺跡	所在地	白杵市大字家野
調査原因	鉄塔建設			調査期間	平成11年11月1日～10月31日
調査機関	白杵市教育委員会			調査担当者	小倉 卓
調査面積	350㎡	時期	弥生～中世	遺物の保管	白杵市文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
埋土土坑・瓶穴遺構		縄文～中世		小面積のため不明	
関係文献 「家野遺跡」白杵市教育委員会 1998					
No.	77	遺跡名	白杵城下町遺跡	所在地	白杵市大字白杵字新町
調査原因	店舗建設			調査期間	平成11年5月7日～5月8日
調査機関	白杵市教育委員会			調査担当者	神田高士・小倉 卓
調査面積	100㎡	時期	近世・近代	遺物の保管	白杵市文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
井戸状遺構・礎石建物		近現代陶磁器 近現代瓦		西南戦争寺の留恵社焼失遺構面を確認	
関係文献					
No.	78	遺跡名	木ヶ畑遺跡	所在地	白杵市大字武山字木畑
調査原因	鉄塔建設			調査期間	平成11年7月1日～7月15日
調査機関	白杵市教育委員会			調査担当者	小倉 卓
調査面積	50㎡	時期	不明	遺物の保管	白杵市文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		近世陶磁器		不明	
関係文献					

No.	79	遺跡名	持田遺跡		所在地	白杵市大字野田字持田	
調査原因	店舗建設				調査期間	平成11年11月15日～12月10日	
調査機関	白杵市教育委員会				調査担当者	神田高士	
調査面積	450㎡	時期	中世		遺物の保管	白杵市文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
柱列		中国製陶磁器・刀子			13世紀～16世紀の遺物が出土 全面調査を実施していないので詳細は不明		
関係文献							
No.	80	遺跡名	向原地区		所在地	扶岡町大字向原	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成11年9月14日	
調査機関	扶岡町教育委員会				調査担当者	山田尚志	
調査面積	5,000㎡	時期	不明		遺物の保管	扶岡町教育委員会（歴史民俗資料館）	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
不定形土壇1		白磁片1点			不明		
関係文献							
No.	81	遺跡名	米鉢袋尾地区		所在地	扶岡町大字米鉢字袋尾	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成11年7月16日	
調査機関	扶岡町教育委員会				調査担当者	山田尚志	
調査面積	3,000㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし		なし			——		
関係文献							

# 大分市



No.	82	遺跡名	中世大友城下町跡(第5次調査)	所在地	大分市六切北町
調査原因	大分駅連続立体交差事業			調査期間	平成11年8月26日～平成12年3月25日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	吉田 寛
調査面積	420㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

## 位置

大分川下流域の左岸に広がる沖積平野に位置し、中世市内町の推定林小路町及び大友御蔵場付近に相当する。

## 遺構

16世紀～17世紀初頭の遺構が確認され、概ね以下の3時期に区分できる。

- ①16世紀～17世紀初頭 土坑1・溝1、その他の集石群
- ②16世紀後半 土塁遺構とそれに伴う溝・井戸・土坑など
- ③16世紀前半～中頃 土塁遺構に先行する大型の溝など



中世大友城下町跡(第5次調査)  
(1/25,000[大分])

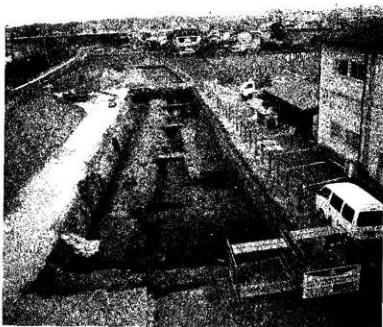
## 遺物

16世紀代に比定できる中国産陶磁器、備前焼、土師質土器など。中でも注目すべきものとして、華南三彩壺・同鳥形水注、東南アジア産の陶磁器がある。

## まとめ

16世紀後半代に比定される土塁遺構は、東西方向に70m以上伸びることが確認された。当該遺構は大友御蔵場の推定北側区画線と重複する位置にあり、遺構の性格の究明が今後の課題となる。現地調査は平成12年度も継続して行われる予定である。

(吉田 寛)



調査区全景

No.	83	遺跡名	大友館跡(第3次～5次調査)	所在地	大分市瀬徳町
調査原因	確認調査	調査期間	3次：平成11年11月1日～平成12年2月31日 4次：平成12年1月8日～平成12年2月9日 5次：平成12年1月8日～2月9日	調査担当者	池邊千太郎・河野史郎
調査機関	大分市教育委員会	調査面積	3次：2,500㎡ 4次：100㎡ 5次：100㎡	時期	中世
調査面積		遺物の保管			大分市教育委員会文化財課

## 位置

『府内古図』及び旧字図による絵図の現地比定作業により復元された中世府内町は、大分川下流左岸の南北2.2km、東西0.7kmにわたる広大なものであり、大友館はそのほぼ中心地である。現在の瀬徳町一帯の200m四方の範囲に推定されている。

調査は、市単費(3次)及び国庫補助(4次・5次)による確認調査で、調査区は、昨年度調査が行われた1次調査の西側(3次)、2次調査の北側(5次)、館のほぼ中心部(4次)にそれぞれ設定した。



大友館跡(3次～5次調査)  
(1/25,000(大分))

## 遺構

3次調査地点で検出された主要遺構については、庭園状遺構、石製礎盤を有する建物等がある。特に庭園状遺構については、切り合いが存在し、Ⅰ～Ⅲ期にわたる庭園状遺構の変遷が確認された。この結果、1次調査で確認された庭園状遺構がⅢ期であること、その最終的な東西長が66mを測ることが判明した。

5次調査地点で検出された主要遺構については、2次調査でも確認された16世紀後半の整地層を切る形で検出された掘立柱建物跡及び井戸と整地層下の土塁状遺構がある。特に土塁状遺構については、2次調査のものとのつながりも確認された。

4次調査地点で検出された主要遺構については、16世紀後半の整地層を挟んだ上下に区画溝(上)と、大溝(下)が確認されている。



大友館跡3次調査全景

## 遺物

出土遺物については、3次調査のⅠ期庭園状遺構から出土した系切り土師器のみによる大量廃棄遺物群、Ⅱ期庭園状遺構から出土した京都系土師器のみによる大量廃棄遺物群、Ⅲ期庭園状遺構から出土した華南三彩壺、鳥形水注、灯明皿に転用された京都系土師器等がある。

5次・6次調査地点から出土した遺物には、京都系土師器、系切り土師器等がある。

## まとめ

今年度の調査により、館の拡張(方2町)と第Ⅲ期庭園の造成が連動することが判明した。しかし、方2町段階の館西面の確認はされず、今後課題を残した。

(河野史郎)



No.	84	遺跡名	下部遺跡群(第115次調査)	所在地	大分市下郡北3丁目
調査原因	小学校建設			調査期間	平成11年4月1日～平成12年1月13日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也・羽田野達郎
調査面積	8,740㎡	時期	弥生～古代・戦国	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課

## 位置

下部遺跡群は大分川右岸の微高地上に展開する。約96haの面積を有する遺跡の西側に大分川が所在し、これに並行するような形で遺跡の中央を巨大な旧河道が南北方向に存在する。このため遺跡は2本の河川と東の鶴崎丘陵により画された南北に細長い2つの自然堤防上に分布する。

第115次調査は大分川の本流に近い西側の自然堤防の東端、つまり東側旧河道に接する地点に相当する。



下部遺跡群(第115次調査)  
(1/25,000「鶴崎」)

## 遺構

井戸跡(弥生～古墳)・掘立柱建物跡(古代・中世)・土器焼成坑(古代)・井戸跡(古代)・道路跡(中世～近世)

## 遺物

弥生～古墳 弥生土器(後期) 土師器

古代 土師器・須恵器・円面硯・東海産須恵器瓶・墨書土器

中世 朝鮮陶器・鉄砲玉

## まとめ

検出遺構には、弥生時代後期～近世のものがある。なかでも奈良時代のものが中心を占め、調査対象地のほぼ全面において確認することができた。掘立柱建物跡、井戸跡、土器廃棄土坑、土器焼成坑などがある。掘立柱建物跡は遺跡の遺存状況の良好な南側部分で集中的に確認され、現状で7棟を確認することができる。土器廃棄土坑は掘立柱建物跡の周囲にランダムに配置されているようであるが、いずれも巨大なものが多く特に調査区のほぼ



S×450 遺物出土状況

中央で確認したSX450は長径約8.0mを測り、内部に大量の土器を内包する。土坑内から出土する土器は、多量の供膳形態をはじめ煮沸形態も相当量含んでいる点が特徴的である。出土土器の中には、東海産と推定される須恵器瓶の出土などが認められ注日されるほか、特筆される点として複数の廃棄土坑間の資料が接合するという現象がある。これが何を意味しているのかは今後の課題となるが、須恵器などには遠隔の土坑間で完形に近く接合できるものもあり非常に興味深い所見といえる。

当地域には、井戸跡が集中し前記のように多くの廃棄土坑が多数存在する点や、廃棄土坑の内容に多くの煮沸形態を有する点、さらにこれまでの下部遺跡群内での調査結果から、今次の調査地の西側に官衙中心部が想定される点などから本調査区が歴史的な機能空間である可能性も考えられよう。

(坪根伸也)

No.	85	遺跡名	下郡遺跡群(第120次調査)	所在地	大分市下郡中央
調査原因	区画整理			調査期間	平成11年5月25日～平成12年1月31日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也・小野貴史・早田利宏
調査面積	1,600㎡	時期	弥生～近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課

## 位置

今回の調査地点は、下郡遺跡群の中央西端に位置し、調査区の西側は、大分川の推定旧河道に接している。東側にはJR豊肥線が走り、既往の調査によって古代(8世紀中頃～9世紀)の道路状遺構が確認されている地点に相当する。



下郡遺跡群(第120次調査)  
(1/25,000(縮小))

## 遺構

弥生時代	竪穴住居跡・井戸跡・溝状遺構・土坑
古墳時代	竪穴住居跡
古代	掘立柱建物跡・井戸跡・横列・土坑
中世	掘立柱建物跡・溝状遺構・土坑
近世	溝状遺構

## 遺物

弥生時代	弥生土器(中期から後期)
古墳時代	土師器・須恵器・銅鏃・鉄鏃
古代	土師器・須恵器・刻骨・フイゴ羽口
中世	土師器・須恵器・輸入陶磁器・京都系土師器皿



下郡遺跡群(第120次調査)全景

## まとめ

検出遺構は弥生時代中期～近代のもので、連続と遺跡形成がなされていった状況を看取することができる。なかでも弥生時代と古代に遺跡の大規模化がみられる。弥生時代のものには、井戸跡、溝状遺構などがあり、井戸跡(SE1090)は素掘りの井戸でありながら、埋没途中に土器の一括廃棄の状況が認められ、当該期の土器組成を検討するに際し貴重な資料を提供した。壺等の諸特徴から弥生時代後期中葉前後に位置付けられるものである。溝状遺構は調査区を南北方向に縦断する形で2本検出されており、これまでの周辺地域の調査所見から大分川方向に対して環濠状に集落を圍繞するものであろうと考えられる。2本の溝は出土土器から最終埋没時期に差があると考えられるが、同時併存していた可能性が高く、二重環濠としての機能が推定される。内溝(SD1100)は現状で幅4.5m、深さ1.3m、外溝(SD1200)は幅2.9m、深さ0.8mを測り、両溝とも断面形状は逆U形状を呈している。今回の調査で注目されるものに、SD1100が途中まで埋まった段階において、溝内に複数の土坑が掘削されている点がある。埋土内は歯と思われるものを含むものもあり、土壌墓である可能性も指摘され、これまで不明であった当該期の墓制解明に期待を抱かせる所見もえられている。

古代のものには第90次調査で検出したSB008の延長とその南側に並列する二条の横列状遺構(SA2580)、井戸跡(SE1420)などがある。SA2580は第90次調査で検出された建物群に接続し、何がしかの遮蔽を意図して構築されている。この前面(東側)には空閑地があり、この中央にSE1420が配される。SE1420は機能停止直後に底面まで掘り返され、最下面に土師器壺が埋置されていた。また埋土内より刻骨と思われる骸骨なども確認されている。さらには、埋め戻し後も掘鉢状の土坑が複数回り直され、その都度、土坑内で火が焚かれていた状況も認められている。極めて呪術的な様相を有しており、これまで同遺跡群内で検出された井戸跡とは明らかに異なっている。

(坪根伸也)

No.	86	遺跡名	松岡古窯跡群	所在地	大分市大字松岡
調査原因	宅地造成			調査期間	平成11年3月4日～9月10日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤岐和夫・池邊千太郎
調査面積	3,000㎡	時期	奈良	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課

## 位置

大野川下流左岸の標高70～120mの高所にあり、谷筋の奥まった傾斜面を窯の構築場所として選定している。また、窯は、半径200mの範囲に分布する。

## 遺構

4基の窯は半地下式の登り窯で、焚口部分に長さ1m程の浅い船底状ピットが確認された。

1号窯は、長さ7.1m、最大幅1.2m、高低差3.6mである。

2号窯は、長さ6.78m、最大幅1.47m、高低差2.5mである。

3号窯は、長さ6.945m、最大幅1.35mである。

3号窯の西側には直径2mの土坑があり、付属施設と考えられる。

4号窯は、長さ5.5m、最大幅1.12mである。

## 遺物

8世紀中頃から後半の須恵器で、器種は壺、甕、蓋、坏、高台付坏、高坏、盤、皿、碗である。2号と3号窯からは、円面硯が出土している。

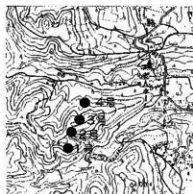
## まとめ

今回、豊後で初めて須恵器の窯が発見された。松岡では、これまで8世紀末から9世紀初頭に土師器を焼いた焼成坑が発見された井ノ久保遺跡や粘土採掘跡が見つかった横尾遺跡があるなど、奈良～平安時代にかけて焼き物の一大生産地であったことが判明した。

(池邊千太郎)

## 文献

『大分市埋蔵文化財年報』8 大分市教育委員会 1997



松岡古窯跡群(1/25,000[縮尺])



3号窯完壺状況

No.	87	遺跡名	鶴崎御茶屋遺跡	所在地	大分市南鶴崎
調査原因	体育館増改築			調査期間	平成11年4月7日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	18㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
円形の土坑(井戸跡?)		——		試験調査	
関係文献					
No.	88	遺跡名	辻遺跡	所在地	大分市大字辻
調査原因	プール建設			調査期間	平成11年4月8日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	43.5㎡	時期	——	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ビット2		土器片3点		試験調査	
関係文献					
No.	89	遺跡名	羽田遺跡	所在地	大分市大字片島字下川田
調査原因	アパート建設			調査期間	平成11年4月20日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	25㎡	時期	中世・戦国期	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					
No.	90	遺跡名	中世大友城下町跡	所在地	大分市大字大分
調査原因	駐車場建設			調査期間	平成11年4月26日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	29.57㎡	時期	中世・戦国期	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
大型の土坑・ビット・審ち込み		龍泉窯系青磁片・備前大甕同安窯系青磁片		試験調査	
関係文献					
No.	91	遺跡名	園分遺跡	所在地	大分市大字同分字紺屋園
調査原因	牛舎建設			調査期間	平成11年4月27日～4月28日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	333㎡	時期	奈良～近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
七坑・ビット・溝状遺構(古代)		布目瓦・軒瓦・土師陶片 須恵器片・陶磁器片		試験調査	
関係文献					

No.	92	遺跡名	周知遺跡外(山岡地区)		所在地	大分市日岡	
調査原因	体育館増改築				調査期間	平成11年5月11日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	18㎡	時期	_____		遺物の保管	_____	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
_____			_____		試掘調査		
関係文献							
No.	93	遺跡名	鶴崎町遺跡		所在地	大分市東鶴崎	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成11年5月13日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	53㎡	時期	近世		遺物の保管	大分市教育委員会文化財課	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
土坑・火災処理土坑			土師器小皿・京焼風陶器破		試掘調査		
関係文献							
No.	94	遺跡名	下部遺跡群		所在地	大分市下部	
調査原因	区画整理				調査期間	平成11年5月28日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	13㎡	時期	_____		遺物の保管	_____	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
_____			_____		試掘調査		
関係文献							
No.	95	遺跡名	下部遺跡群		所在地	大分市下部	
調査原因	区画整理				調査期間	平成11年5月28日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	39㎡	時期	_____		遺物の保管	大分市教育委員会文化財課	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
暗渠状遺構			土師器小片		試掘調査		
関係文献							
No.	96	遺跡名	下部遺跡群		所在地	大分市下部	
調査原因	区画整理				調査期間	平成11年6月9日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	52㎡	時期	中世・近世		遺物の保管	大分市教育委員会文化財課	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
溝状遺構・ピット			和泉型瓦器片(12世紀末~13世紀初) 外面黒色磨研土器		試掘調査		
関係文献							

No. 97	遺跡名	中世大友城下町跡	所在地	大分市元町
調査原因	店舗兼住宅建設		調査期間	平成11年6月10日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司
調査面積	4㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		_____		試験調査
関係文献				
No. 98	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成11年6月14日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司
調査面積	8.4㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
溝状遺構・ピット		_____		試験調査
関係文献				
No. 99	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成11年6月14日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司
調査面積	12㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		土器片2点		試験調査
関係文献				
No. 100	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成11年6月15日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司
調査面積	36㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		_____		試験調査
関係文献				
No. 101	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成11年6月16日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司
調査面積	10㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
溝状遺構		_____		試験調査
関係文献				

No.	102	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成11年6月17日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	13.5㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					
No.	103	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成11年6月17日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	17㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					
No.	104	遺跡名	中世大友城下町跡	所在地	大分市顕徳町
調査原因	マンション建設			調査期間	平成11年6月22日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	9㎡	時期	——	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
隅丸方形の土坑		備前焼片・焼締陶器片・肥前染付磁そば猪口・瓦質土器片・土師器片		試験調査	
関係文献					
No.	105	遺跡名	羽田遺跡	所在地	大分市大字片島
調査原因	アパート建設			調査期間	平成11年6月24日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	25㎡	時期	近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝状遺構・ピット・土坑		陶胎染付片・染付片		試験調査	
関係文献					
No.	106	遺跡名	周知遺跡外(城原地区)	所在地	大分市大字城原
調査原因	宅地造成			調査期間	平成11年6月29日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	83㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					

No.	107	遺跡名	府内城・城下町遺跡	所在地	大分市府内町
調査原因	マンション建設			調査期間	平成11年7月6日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	3㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
廻り込み		——		試験調査	
関係文献					
No.	108	遺跡名	中世大友城下町跡	所在地	大分市大字顕徳町
調査原因	マンション建設			調査期間	平成11年7月13日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	14㎡	時期	中世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ピット・土坑(竪?)		骨片・土師器小皿・常滑焼片 備前焼片・瓦質土器片・陶磁器片		試験調査	
関係文献					
No.	109	遺跡名	基本遺跡	所在地	大分市大字強野
調査原因	共同住宅建設			調査期間	平成11年7月16日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	85㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					
No.	110	遺跡名	周知遺跡外(板ヶ丘地区)	所在地	大分市板ヶ丘
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成11年7月22日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	10㎡	時期	——	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝状遺構		瓦・土師器片・陶器片		試験調査	
関係文献					
No.	111	遺跡名	府内城・城下町遺跡	所在地	大分市府内町
調査原因	ビル建設			調査期間	平成11年7月27日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司・堀地潤一
調査面積	26㎡	時期	——	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		寛永通寶・陶磁器片		試験調査	
関係文献					



No. 112	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市下部
調査原因	区画整理		調査期間	平成11年7月28日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司
調査面積	45㎡	時期	——	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
——		——		試験調査
関係文献				
No. 113	遺跡名	周知遺跡外(板ヶ丘地区)	所在地	大分市板ヶ丘
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成11年7月29日～7月30日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司
調査面積	60㎡	時期	——	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
道路状遺構・側溝		京塚系土師器(16世紀後半)		試験調査
関係文献				
No. 114	遺跡名	下志村遺跡	所在地	大分市大字志村字下志村
調査原因	防球フェンス設置		調査期間	平成11年8月3日～8月4日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司
調査面積	144㎡	時期	——	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
土坑・ピット・井戸跡?		白磁区類		試験調査
関係文献				
No. 115	遺跡名	府内城・城下町遺跡	所在地	大分市中央町
調査原因	ビル建設		調査期間	平成11年8月5日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約10㎡	時期	——	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
土坑・火災処理土坑		肥前陶器皿(内野山窯・17世紀末～18世紀前半)・陶胎染付片		試験調査
関係文献				
No. 116	遺跡名	府内城・城下町遺跡	所在地	大分市府内町
調査原因	マンション建設		調査期間	平成11年8月17日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約9㎡	時期	中世・近世	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
第1面火災処理土坑・ピット 第2面方形土坑・ピット		府津系陶器・土師質土器破片 瓦片・志野焼口縁部片		試験調査
関係文献				

No. 117	遺跡名	大道系里跡	所在地	大分市大字大週町
	調査原因	マンション建設	調査期間	平成11年8月20日
	調査機関	大分市教育委員会	調査担当者	塔鼻光司
	調査面積	約33㎡	時期	近世
			遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
溝状遺構・近世の水田層		青磁染付片・陶胎染付片 土師貫指鉢片・焼締陶器片		試験調査
関係文献				
No. 118	遺跡名	周知遺跡外(坂ノ市地区)	所在地	大分市大字坂ノ市
	調査原因	体育館増改築	調査期間	平成11年8月24日
	調査機関	大分市教育委員会	調査担当者	塔鼻光司
	調査面積	約14㎡	時期	——
			遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
ピット・不定形土坑・溝状遺構		土師質小皿片(13世紀代)		試験調査
関係文献				
No. 119	遺跡名	鶴崎御茶屋跡	所在地	大分市南鶴崎
	調査原因	体育館増改築	調査期間	平成11年8月25日
	調査機関	大分市教育委員会	調査担当者	塔鼻光司
	調査面積	35㎡	時期	近世
			遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
ピット・掘り込み(堀?)		瓦片(軒丸・平)・陶磁器片		試験調査
関係文献				
No. 120	遺跡名	鶴崎御茶屋跡	所在地	大分市南鶴崎
	調査原因	体育館増改築	調査期間	平成11年8月28日
	調査機関	大分市教育委員会	調査担当者	塔鼻光司
	調査面積	8㎡	時期	近世
			遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
蓄ち込み・ピット・土坑		瓦片(軒平)・焼締陶器片 陶磁器片・菊皿底部片(1用) 土鍋片		試験調査
関係文献				
No. 121	遺跡名	上野遺跡群	所在地	大分市上野ヶ丘
	調査原因	住宅建築	調査期間	平成11年8月30日
	調査機関	大分市教育委員会	調査担当者	塔鼻光司
	調査面積	約7.5㎡	時期	——
			遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
掘り込み		瓦片(布目痕)		試験調査
関係文献				

No.	122	遺跡名	周知道路外(駄原地区)		所在地	大分市大字駄原	
調査原因	大分駅周辺総合整備事業				調査期間	平成11年8月31日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	約77㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
——		——			試験調査		
関係文献							
No.	123	遺跡名	中世大友城下町跡		所在地	大分市元町	
調査原因	下水道ポンプ場建設				調査期間	平成11年9月1日～9月3日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	約80㎡	時期	中世		遺物の保管	大分市教育委員会文化財課	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
溝状遺構・土坑・ピット 大型盛り込み事業		京都系土器(16世紀中～後半) 土師製焼・中興天目茶碗・白磁皿			試験調査		
関係文献							
No.	124	遺跡名	中世大友城下町跡		所在地	大分市錦町	
調査原因	店舗建設				調査期間	平成11年10月12日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	約3㎡	時期	——		遺物の保管	大分市教育委員会文化財課	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
溝状遺構		土器片			試験調査		
関係文献							
No.	125	遺跡名	下部遺跡群		所在地	大分市大字下郷	
調査原因	区画整理				調査期間	平成11年10月19日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	約27㎡	時期	弥生?		遺物の保管	大分市教育委員会文化財課	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
溝状遺構・ピット・落ち込み 弥生期の水田遺構?		弥生土器片(弥生中期末?)			試験調査		
関係文献							
No.	126	遺跡名	周知道路外(金池南地区)		所在地	大分市金池南	
調査原因	大分駅周辺総合整備事業				調査期間	平成11年10月25日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	約9㎡	時期	——		遺物の保管	大分市教育委員会文化財課	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
——		土器片・陶器片			試験調査		
関係文献							

No.	127	遺跡名	周知遺跡外(金池南地区)	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成11年10月25日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約18㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ビット		——		試験調査	
関係文献					
No.	128	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成11年10月26日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約14㎡	時期	弥生～古墳	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝状遺構		近世陶磁器片 高坏片・甕片・直口壺片		試験調査	
関係文献					
No.	129	遺跡名	周知遺跡外(金池南地区)	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成11年10月26日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	22㎡	時期	——	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		近世陶磁器片 小型直口壺片・弥生甕片		試験調査	
関係文献					
No.	130	遺跡名	周知遺跡外(板ヶ丘地区)	所在地	大分市板ヶ丘
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成11年10月27日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約21㎡	時期	——	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		土器片・陶磁器片		試験調査	
関係文献					
No.	131	遺跡名	周知遺跡外(板ヶ丘地区)	所在地	大分市板ヶ丘
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成11年10月28日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約11㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					

No. 132	遺跡名	周知遺跡外(金池南地区)		所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成11年10月28日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約17㎡	時期	古代・中世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ピット・土坑 溝状遺構(掘り込み事業)		青花片(D群?)・唐津焼 金敷型甕・内黒土器片		試験調査	
関係文献					
No. 133	遺跡名	上野遺跡群		所在地	大分市上野ヶ丘
調査原因	共同住宅建設			調査期間	平成11年11月4日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約45㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					
No. 134	遺跡名	下郡遺跡群		所在地	大分市大字下郡
調査原因	区画整理			調査期間	平成11年11月5日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約45㎡	時期	——	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		土器片		試験調査	
関係文献					
No. 135	遺跡名	中世大友城下町跡		所在地	大分市元町
調査原因	下水道ポンプ場建設			調査期間	平成11年11月10日～11日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約41㎡	時期	中世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
不定形土坑・道路状遺構		中国染付皿(B・C群) ベトナム陶器・白磁輪花皿 京都系土師器		試験調査	
関係文献					
No. 136	遺跡名	上野遺跡群		所在地	大分市上野ヶ丘
調査原因	住宅建築			調査期間	平成11年11月30日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約28㎡	時期	——	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ピット・土坑・樹木根跡?		土器片		試験調査	
関係文献					

No. 137	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市油南	
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成11年12月1日～12月2日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	約172㎡	時期	弥生?～近代	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ピット・溝状遺構		上図片・唐津系陶器片・肥前青磁片 縄文晩期深鉢片		試験調査	
関係文献					
No. 138	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市大字下郡	
調査原因	区画整理		調査期間	平成11年12月7日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	約18㎡	時期	古代	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ピット・溝状遺構		企教室瓦片・土師器環(環d) 豊後大分型甕・白磁IV類		試験調査	
関係文献					
No. 139	遺跡名	府内城・城下町遺跡	所在地	大分市長浜町	
調査原因	個人住宅建設		調査期間	平成11年12月8日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	約8㎡	時期	中世・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
—		備前焼瓦片・唐津焼瓦(胎土目) 企教室瓦・土師質銅片		試験調査	
関係文献					
No. 140	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市大字下郡	
調査原因	区画整理		調査期間	平成11年12月14日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	約16㎡	時期	弥生?	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ピット・溝状遺構・土坑		須恵器片・弥生後期瓦片・黒曜石		試験調査	
関係文献					
No. 141	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市大字下郡	
調査原因	区画整理		調査期間	平成11年12月15日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	約25㎡	時期	古代・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ピット・土坑		移動式カマド・土師器環片 肥前産陶磁器片		試験調査	
関係文献					

No.	142	遺跡名	浜邊跡	所在地	大分市瀬見町
調査原因	店舗建設			調査期間	平成11年12月20日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約90㎡	時期	幕末	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝状遺構		陶磁器片(19世紀後半)・ガラス片・ 下城式瓦片		試験調査	
関係文献					
No.	143	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南
調査原因	大分県周辺総合整備事業			調査期間	平成11年12月21日～12月22日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	約110㎡	時期	弥生～中世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ビット・溝状遺構・土坑		土器片(弥生・古墳) 絵唐津向付片		試験調査	
関係文献					
No.	144	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市大字下郡
調査原因	建物建設			調査期間	平成12年1月19日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	約42㎡	時期	——	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
水田遺構?		陶胎染付片(18世紀前半以降)		試験調査	
関係文献					
No.	145	遺跡名	府内城・城下町遺跡	所在地	大分市都町
調査原因	店舗建設			調査期間	平成12年2月8日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	池邊千太郎
調査面積	約8.5㎡	時期	近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
廃棄土坑・整地層		陶磁碗・皿(18世紀代)・陶器撞鉢 平瓦		試験調査	
関係文献					
No.	146	遺跡名	若宮八幡宮遺跡	所在地	大分市上野町
調査原因	中学校校舎建て替え			調査期間	平成12年2月9日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	河野史郎
調査面積	約16㎡	時期	弥生	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴・住居跡		——		試験調査	
関係文献					

No. 147	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成12年3月7日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	藤沢敏夫
調査面積	約25㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		_____		試掘調査
関係文献				
No. 148	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成12年3月7日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	藤沢敏夫・後藤典幸
調査面積	約54㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
溝状遺構		_____		試掘調査
関係文献				
No. 149	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成12年3月7日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	藤沢敏夫
調査面積	約12㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		_____		試掘調査
関係文献				
No. 150	遺跡名	下郡遺跡群	所在地	大分市大字下郡
調査原因	区画整理		調査期間	平成12年3月9日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	藤沢敏夫・後藤典幸
調査面積	約15㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		_____		試掘調査
関係文献				
No. 151	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成12年3月13日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	藤沢敏夫
調査面積	約85㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		_____		試掘調査
関係文献				



No.	152	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市大字下郷
調査原因	区画整理			調査期間	平成12年3月9日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敬夫・後藤典幸
調査面積	約15㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					
No.	153	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成12年3月13日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約85㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					
No.	154	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成12年3月13日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約30㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					
No.	155	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成12年3月14日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約36㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					
No.	156	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成12年3月14日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約79㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					

No. 157	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成12年3月15日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約24㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		_____		試験調査
関係文献				
No. 158	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成12年3月15日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約48㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		_____		試験調査
関係文献				
No. 159	遺跡名	周知遺跡外(桜ヶ丘地区)	所在地	大分市桜ヶ丘
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成12年3月17日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約36㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		_____		試験調査
関係文献				
No. 160	遺跡名	周知遺跡外(桜ヶ丘地区)	所在地	大分市桜ヶ丘
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成12年3月17日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約21㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		_____		試験調査
関係文献				
No. 161	遺跡名	周知遺跡外(桜ヶ丘地区)	所在地	大分市桜ヶ丘
調査原因	大分駅周辺総合整備事業		調査期間	平成12年3月21日
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約140㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
_____		_____		試験調査
関係文献				

No.	162	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成12年3月15日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約24㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試掘調査	
関係文献					
No.	163	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成12年3月15日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約48㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試掘調査	
関係文献					
No.	164	遺跡名	周知遺跡外(板ヶ丘地区)	所在地	大分市板ヶ丘
調査原因	大分駅周辺総合整備事業			調査期間	平成12年3月17日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敬夫
調査面積	約36㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試掘調査	
関係文献					
No.	165	遺跡名	下部遺跡群(第118次調査)	所在地	大分市大字下郡北
調査原因	区画整理			調査期間	平成11年3月9日～4月5日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	約148.64㎡	時期	弥生・古墳・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
弥生時代竪穴住居跡(後期) 古墳時代竪穴住居跡		弥生土器 土師製小皿 古銭(寛永通寶)		集落跡・竊地	
関係文献					
No.	166	遺跡名	下部遺跡群(第119次調査)	所在地	大分市大字下郡
調査原因	区画整理			調査期間	平成11年3月18日～5月14日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	約150㎡	時期	弥生・古墳・中世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
弥生時代竪穴住居跡(中期) 古墳時代竪穴住居跡 井戸跡(中世) 近世溝・近世墓		大量の弥生土器(中期) 近世陶磁器		集落跡	
関係文献					

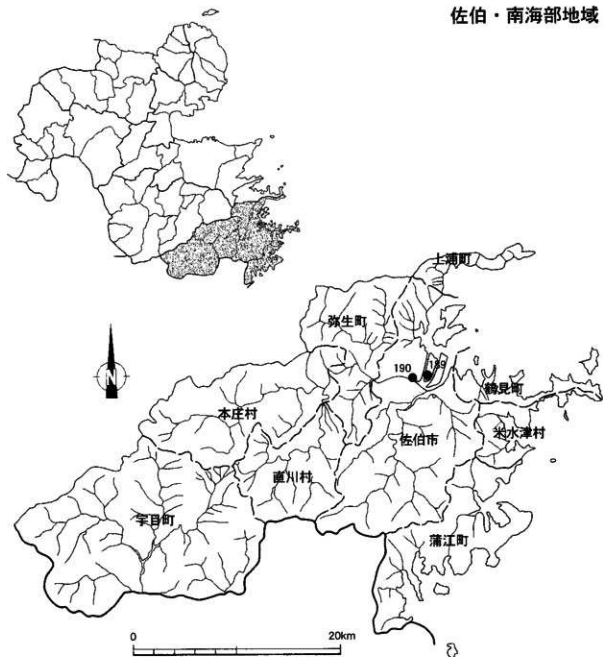
No.	167	遺跡名	下部遺跡群(第121次調査)	所在地	大分市大字下部
調査原因	区画整理			調査期間	平成11年5月18～5月27日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	約200㎡	時期	近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
近世土坑・近世溝		近世陶磁器		近世集落跡	
関係文献					
No.	168	遺跡名	下部遺跡群(第122次調査)	所在地	大分市大字下部
調査原因	区画整理			調査期間	平成11年5月26日～10月29日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	河野史郎
調査面積	約800㎡	時期	弥生・中世・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
近世溝・井戸跡(中世・近世) 土坑(弥生・中世) 近世墓・道路跡(近世)		弥生土器・土師器・瓦質土器 中世陶磁器類		集落跡	
関係文献					
No.	169	遺跡名	下部遺跡群(第123次調査)	所在地	大分市下部
調査原因	区画整理			調査期間	平成11年8月2日～8月11日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	約414㎡	時期	弥生・古墳	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
水田層		弥生土器・土師器		水田層(弥生～古墳)	
関係文献					
No.	170	遺跡名	下部遺跡群(第124次調査)	所在地	大分市下部
調査原因	区画整理			調査期間	平成11年12月8日～平成12年3月6日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	約360㎡	時期	弥生・古墳・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
墓穴位相(弥生～古代) 近世墓・溝状遺構(近世)		弥生土器・土師器・須恵器 染付(幕末)		集落跡(弥生～古代)	
関係文献					
No.	171	遺跡名	横尾遺跡群(第75次調査)	所在地	大分市大字横尾
調査原因	区画整理			調査期間	平成11年5月17日～8月4日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塩地潤一
調査面積	約1,484㎡	時期	古代～近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪立柱建物跡・横列・溝跡 土坑群・井戸跡		朝鮮王朝産陶器皿		集落跡	
関係文献					

No.	172	遺跡名	横尾遺跡群(第76次調査)	所在地	大分市大字横尾
調査原因	区画整理			調査期間	平成11年8月9日～10月23日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	堀地潤一
調査面積	約1,147㎡	時期	中世・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
大形円形建物跡 独立柱建物跡 溝列・石組土坑		唐津陶器碗・雷文帯青磁破片 龍泉窯系青磁碗(1.5-b)片 備前燗鉢(IV期)		調査区は中世高田庄に位置し、13世紀初頭～17世紀前半頃までの中世集落または館の一角にあたる	
関係文献					
No.	173	遺跡名	横尾遺跡群(第77次調査)	所在地	大分市大字横尾
調査原因	区画整理			調査期間	平成11年11月1日～平成12年2月27日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敏夫
調査面積	約1,200㎡	時期	弥生・古墳・中世・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
聖穴(弥生・古墳)・独立柱建物跡(中世) 溝状遺構・溝列・土坑		弥生土器・小型丸底壺 土師器・蔦窯産?須志器 京都系土師器・燗反碗		集落跡(弥生～古墳)	
関係文献					
No.	174	遺跡名	横尾遺跡群(第78次調査)	所在地	大分市下郷
調査原因	区画整理			調査期間	平成12年2月8日～3月16日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敏夫
調査面積	約943㎡	時期	弥生～近現代	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
聖穴(弥生・古墳) 土器指・独立柱建物跡(古代) 溝状遺構(中世・近世)・遺跡状遺構(近現代)		弥生土器・須志器 赤切り瓦土師器 京都系土師器・形紙磁碗(近代)		側溝をともなう道路状遺構(近現代)	
関係文献					
No.	175	遺跡名	中安遺跡(第2次調査)	所在地	大分市大字城原
調査原因	都市計画道路			調査期間	平成11年4月1日～平成12年3月31日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敏夫・高島 豊・堀地潤一
調査面積	約5,600㎡	時期	弥生・古代～近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
大塚型独立柱建物群・四脚門 堀列・墓地層・井戸跡 道路状遺構		円面碗・舞臺須志器 フイゴ塚口 白色玉砂利・中広綱矛		海部評衡跡・郡庁跡	
関係文献					
No.	176	遺跡名	府内城・城下町遺跡(第12次調査)	所在地	大分市大手町
調査原因	マンション建設			調査期間	平成11年7月22日～9月14日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	約296㎡	時期	中世～近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土塁跡(近世)・廃棄土坑 火災処埋土坑・井戸跡 溝状遺構(区画溝?・道路?)		京都系土師器皿(墨器) ベトナム産長胴瓶		近世府内城下の町屋遺跡 府内城の土塁基部を確認	
関係文献					

No. 177	遺跡名	府内城・城下町遺跡(第13次調査)	所在地	大分市中央町	
調査原因	共同住宅建設		調査期間	平成11年10月4日～11月18日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	池邊千太郎	
調査面積	約100㎡	時期	近世	遺物の保管	大分県教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑・井戸跡・火災処理土坑		陶磁器・瓦・キセル		町屋遺跡(2軒にまたぐ)	
関係文献					
No. 178	遺跡名	玉沢地区糸里跡	所在地	大分市大字玉沢	
調査原因	ショッピングモール建設		調査期間	平成11年12月17日～平成12年3月31日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	後藤典幸	
調査面積	約18,500㎡	時期	弥生～古墳・近世	遺物の保管	大分県教育委員会文化財課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
水田跡・墓(墓域)・糸里跡		縄文土器(晩期)・弥生土器(中～後期) 須恵器(古墳)・陶磁器		弥生期の墓域・水田跡	
関係文献					
No. 179	遺跡名	真笠遺跡(真笠の上地区)	所在地	大分市大字松岡字真笠の上	
調査原因	一般国道197号大分南バイパス改良工事		調査期間	平成11年5月24日～6月11日	
調査機関	大分県教育委員会		調査担当者	井川泰成	
調査面積	約600㎡	時期	旧石器・弥生	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑		焼土・炭混じり土・弥生前期土		—	
関係文献					
No. 180	遺跡名	真賀遺跡(カヨウ地区)	所在地	大分市大字松岡字カヨウ	
調査原因	一般国道197号大分南バイパス改良工事		調査期間	平成11年5月10日～6月11日	
調査機関	大分県教育委員会		調査担当者	井川泰成	
調査面積	約650㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝状遺構・竪立柱建物跡		掘鉢片・青磁片(14世紀) 瓦質土器片(中～近世)		—	
関係文献					
No. 181	遺跡名	向原遺跡	所在地	大分市大字松岡字向原	
調査原因	一般国道197号大分南バイパス改良工事		調査期間	平成11年5月10日～平成12年3月30日	
調査機関	大分県教育委員会		調査担当者	井川泰成	
調査面積	約5,900㎡	時期	中世・近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝状遺構・竪立柱建物跡・集石		土器・肥前系染付磁器・鈔型 掘鉢・青磁・近世陶磁器・火鉢		中世・近世の耕作地に伴う溝状遺構等	
関係文献					
No. 182	遺跡名	久保遺跡	所在地	大分市大字佐野字久保	
調査原因	流通工業用地造成		調査期間	平成11年8月23日～8月25日	
調査機関	大分県教育委員会		調査担当者	村上久和	
調査面積	約60㎡	時期	縄文後期	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑		縄文後期土器片・石器片		キャンプ地?	
関係文献					

No.	183	遺跡名	二日川遺跡	所在地	大分市大字横尾字二目川
調査原因	県道松岡日阿線道路改良工事			調査期間	平成11年6月28日～10月8日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武・甲斐寿義・山路康弘
調査面積	約2,000㎡	時期	奈良時代	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
道路跡・土坑		製塩土器・フイゴ羽目・円面硯		鍛冶炉	
関係文献					
No.	184	遺跡名	東大道遺跡(A地区)	所在地	大分市東大道2丁目
調査原因	庄の原在野線街路事業			調査期間	平成12年3月23日～3月24日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	約4,000㎡	時期	縄文～古墳	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
		縄文土器(晩期) 弥生土器(中期) 須恵器		遺物包含層・旧浜梨	
関係文献					
No.	185	遺跡名	東大道遺跡(B地区)	所在地	大分市金池南1丁目・東大道2丁目
調査原因	庄の原在野線街路事業			調査期間	平成11年6月1日～6月2日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	約2,000㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
道路跡・土坑		中国製陶磁器		中世の道路跡及び周辺	
関係文献					
No.	186	遺跡名	清水遺跡	所在地	大分市大字横尾字清水
調査原因	県道鶴崎大南線道路改良			調査期間	平成11年7月9日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約1,500㎡	時期	縄文	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		若干の縄文土器(晩期) 古代土器			
関係文献					
No.	187	遺跡名	虫喰谷遺跡	所在地	大分市大字松岡字虫喰谷
調査原因	一般国道197号大分南バイパス建設			調査期間	平成11年6月15日～7月2日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重・宮田 剛
調査面積	約500㎡	時期	縄文早期・古代	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
集石		縄文土器・古代の土器		集落跡	
関係文献					
No.	188	遺跡名	毛井遺跡(A地区)	所在地	大分市大字毛井字寺の前
調査原因	一般国道197号大分南バイパス建設			調査期間	平成11年12月17日～平成12年3月15日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	宮内克巳
調査面積	約6,000㎡	時期	古墳時代中期	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
聖穴2・溝		土器		集落	
関係文献					

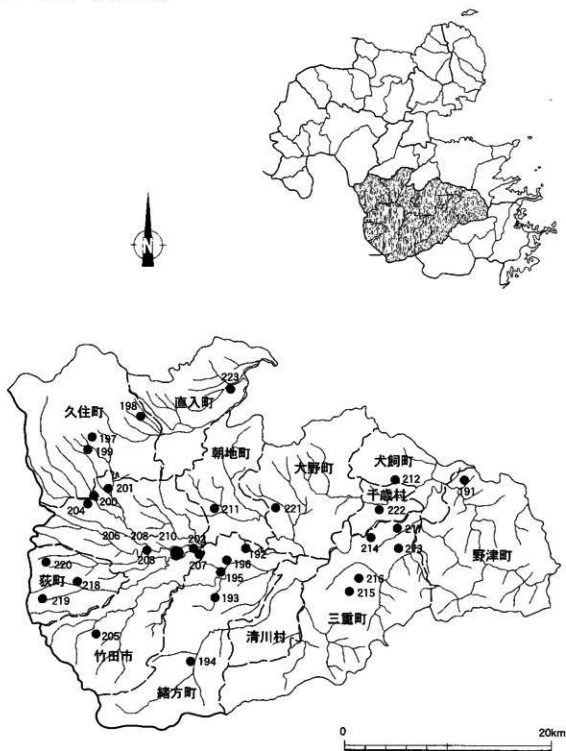
## 佐伯・南海部地域



No. 189	遺跡名	萩山遺跡群(萩山古墳)	所在地	佐伯市来島町5601番-1外
	調査原因	土地区画整理事業	調査期間	平成11年10月13日～12月2日
	調査機関	佐伯市教育委員会	調査担当者	吉武牧子
	調査面積	約140㎡	時期	古墳
			遺物の保管	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
古墳2 組合せ箱式石棺3		なし		川を見下ろす丘陵上に築かれている。1号墳主体部は池山礫、2号墳は箱蓋片岩製。
関係文献				
No. 190	遺跡名	佐伯城下町	所在地	佐伯市西谷32・32-2・33-5
	調査原因	病院建設	調査期間	平成11年4月7日
	調査機関	佐伯市教育委員会	調査担当者	吉武牧子
	調査面積	約38㎡	時期	近世
			遺物の保管	佐伯市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
なし		近世陶磁器類		遺構は発見されなかった。
関係文献				



# 竹田・直入・大野地域



No.	191	遺跡名	千塚西遺跡	所在地	野津町大字千塚字平野
調査原因	泉通吉野原犬飼線建設工事			調査期間	平成11年5月25日～6月18日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一・江島賢一・野口典良
調査面積	50m <sup>2</sup>	時期	近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

## 位置

遺跡は野津川流域の木所集落から千塚川流域谷部を抜け、千塚の台地上にのぼる平野集落の入口に位置する。調査区は県道吉野原犬飼線と県道吉野原犬飼線から平野集落に入る車道の分岐点に位置し、地元では、当該地一帯を「トシノカミ」のシコナで呼んでいる。地元の古老によれば、昭和初期には各道路とも牛馬が通る程度の小道であったものの、その位置はほぼ踏襲されているという。



千塚西遺跡(1/25,000〔犬飼〕)

## 遺構

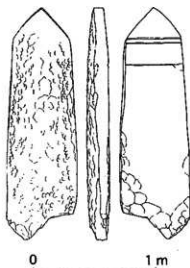
板碑・自然石板碑群・集石遺構・土坑

## 遺物

五輪塔空風輪・石器・扁平打製石器・近世陶磁器

## まとめ

現状は横約10m、奥行き約3m、高さ約0.5mの塚上に板碑1基、自然石板碑4基が建てられていた。これらの板碑・自然石板碑の時期及びその下部がどのようになっていたか、調査の課題とされた。調査の結果、板碑・自然石板碑下部の塚は拳大から一抱えもある石を集積したものであることがわかり、集石下から不定形土坑が検出され、その中から18世紀代の染付が出土したため、板碑・自然石板碑は近世中葉以降に建てられたことがわかる。これらの板碑群には、銘文は全く確認できず、板碑そのものから帰属時期を知ることは困難であった。唯一、整形板碑が額部の突出が全くなく、碑身部と額部の境に沈線を1本入れているのと、額部2条線がいずれも沈線であることなど、戦国期末から18世紀代の特徴を持つことや、遺構との整合性から18世紀中葉を前後する時期の遺造であることが想定できる。ところで、これらの板碑群の性格であるが、銘文が全く確認できず、特定しにくいのが、広く大野郡域において同様の遺跡が庚申塔群としての形態を多くとるため、千塚西遺跡が平野集落の入口の境界域にあたることと併せてこの板碑群は庚申信仰のものと遺造された可能性が高いと考えられる。



千塚西遺跡1号板碑実測図

(原田昭一)

## 文献

原田昭一『千塚西遺跡』大分県教育委員会 2000

No.	192	遺跡名	高尾城跡	所在地	緒方町大字爺丸字高尾
調査原因		中学校建設		調査期間	平成12年2月11日～3月30日
調査機関		緒方町立歴史民俗資料館		調査担当者	高野弘之
調査面積	約2,000㎡	時期	中世	遺物の保管	緒方町立歴史民俗資料館

## 位置

高尾城跡は緒方平野北方の丘陵地帯に所在し、大野川方向に舌状に伸びた地形を利用して構築されている。最高地点は標高230mである。高尾城跡の南方約100mには、15世紀末から17世紀末まで営まれた墳墓群『千人塚遺跡』が所在した。高尾城跡の北方約500mの地点には、大野川を挟んで志賀城跡が所在する。



高尾城跡(1/25,000「竹田」)

## 遺構

土塁4カ所・櫓台遺構1カ所・堅堀1条・畝状空堀6条・土坑5基・切岸など。

## 遺物

輸入陶磁器片・備前焼片・鉄片・寛永通寶1枚

## まとめ

高尾城跡は、天正年間の島津・大友戦争の時に築かれた山城といわれる。『大友興廃記』には、天正14年10月に薩州勢三千騎を迎えうち激戦がおこなわれたとされる。

平成11年度に、緒方中学校体育館の建設が近接地において予定されたため、山城の範囲確認調査を実施することになった。

その結果、大手門・土塁・切岸・堅堀・畝状空堀などを確認した。また、大手門と推定される場所の近接地に、櫓台と推定される台形の小山を確認した。試掘溝を入れたところ、方形土坑・柱穴を確認した。土坑は、櫓台周辺地においても4カ所確認できたので、墓地の可能性があり、検出状況以上の調査をおこなわず、埋め戻しを実施した。機会があれば今後調査を実施したい。

また、本丸と推定される頂上部周辺は、大野川方向に切岸、南側には堅堀1条と畝状空堀6条、西側には土塁1カ所を確認した。頂上部分に入れたトレンチの一部からは、16世紀の輸入陶磁器片と備前焼片が出土した<sup>8)</sup>。島津・大友戦争時と同一時代のものである。頂上部には周辺地よりも方形に盛りあがった部分(20m×10m)があり、何らかの構造物が築造された可能性がある。

『大友興廃記』には、「俄かに築造された山城」という記述があるが、町内では遺構の規模・保存状況が最も良好な山城である。

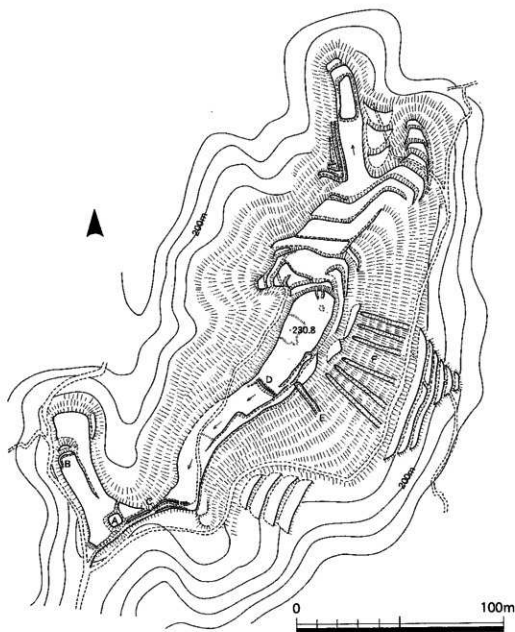
(高野弘之)

注) 大分市教育委員会 玉水光洋 氏の助言による。

## 文献

芦刈政治『島津軍進攻と三重郷松尾城』『大分県地方史』第122号 大分県地方史研究会 1986  
『緒方村誌』緒方町 1934

- A: 櫓台式遺構
- B: 土 壘
- C: 土 壘
- D: 土 壘
- E: 竪 堀
- F: 敵状空堀



高尾城縄張り図(原図:大田市教育委員会 玉永光洋氏)



A: 櫓台式遺構全景



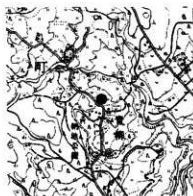
C: 土壘全景

No.	193	遺跡名	竜千寺遺跡		所在地	緒方町大字上冬原	
調査原因	農業基盤整備				調査期間	平成12年2月1日～2月10日	
調査機関	緒方町立歴史民俗資料館				調査担当者	高野弘之	
調査面積	約1,000㎡	時期	縄文早期・近世		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			近世墓(伝キリシタン墓) 川壁地蔵		縄文早期の楕円形土器や環状石斧出土の経緯があった遺跡であるが、今回の調査では遺物・遺構未検出。		
関係文献							
No.	194	遺跡名	世尊寺遺跡		所在地	緒方町大字上畑	
調査原因	倒壊石幢復元				調査期間	平成12年3月27日～3月30日	
調査機関	緒方町立歴史民俗資料館				調査担当者	高野弘之	
調査面積	約400㎡	時期	中世		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
石幢1 ツキノワグマ供養塔1			近世肥前系磁器数点		天正年間に島津軍の兵火に遭った世尊寺跡と伝えられる。石幢には記念銘がないが、16世紀後半のものと思われる。		
関係文献 「緒方村史」 緒方町 1934							
No.	195	遺跡名	上自在南遺跡群		所在地	緒方町大字上自在～原尻	
調査原因	県道緒方朝地線改良工事				調査期間	平成11年11月16日～11月18日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	後藤一重	
調査面積	約600㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		——		
関係文献							
No.	196	遺跡名	下自在南遺跡		所在地	緒方町大字下自在	
調査原因	県道緒方朝地線改良工事				調査期間	平成11年11月26日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	後藤一重	
調査面積	約140㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		——		
関係文献							

No. 197	遺跡名 青柳遺跡群(脇遺跡)	所在地 久住町大字久住974
調査原因 跡地整備		調査期間 平成11年7月1日～11月18日
調査機関 久住町教育委員会		調査担当者 椋浦幸徳
調査面積 約7,540㎡	時期 弥生・近世	遺物の保管 久住町教育委員会

## 位置

青柳遺跡群は久住町のほぼ中央の大字久住にあり、昭和18年に県指定の名勝になっている納池公園の北側標高約640mの緩斜面に位置する。今回調査した脇遺跡は、青柳遺跡群のほぼ中央にあたる。



青柳遺跡群(脇遺跡)  
(1/25,000[久住])

## 遺構

弥生時代中期後半から後期初頭の竪穴遺構18基、掘立柱建物2棟、近世の溝、土坑が検出された。竪穴遺構の約半数は遺存状態が非常によく、平面プランは隅丸方形及び不整形円形のほかに花卉形を呈するものも5基認められた。このうち4基が二段掘りで、低いベッド状遺構が設けられる。

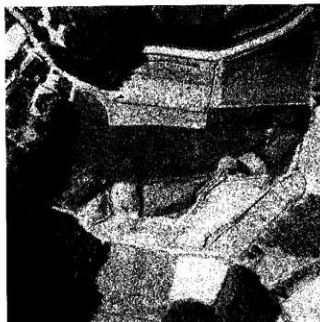
## 遺物

各竪穴遺構から多くの土器が出土し、磨製石鏃・打製石鏃・石包丁等の石器や数点の鉄器も認められた。また、花卉形を呈する竪穴の床面中央付近からヒスイ製の勾玉が出土した。

## まとめ

大野川上流域では弥生時代中期後半から後期初頭の集落跡の調査はほとんど無く、この時期の集落の実態についてはほとんど不明であった。今回の調査では、各竪穴遺構にともなうまとまった資料が出土し、弥生時代における水稲農耕を基盤とする集落の出現や展開を知るうえで貴重な資料となる。

(椋浦幸徳)



脇遺跡全景

No.	198	遺跡名	大塚遺跡	所在地	久住町大字有氏4346
調査原因	県営岡地整備			調査期間	平成11年5月6日～6月10日
調査機関	久住町教育委員会			調査担当者	榎浦幸徳
調査面積	約1,700㎡	時期	弥生・中世	遺物の保管	久住町教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居・溝・掘立柱建物		土器・鉄器・石器・陶磁器		原田遺跡と隣接する位置にあることから同遺跡の一部とも考えられる。	
関係文献					
No.	199	遺跡名	久住中央地区	所在地	久住町大字久住
調査原因	県営岡地整備			調査期間	平成12年3月16日～3月30日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	宮内克巳・榎浦幸徳
調査面積	約800㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	200	遺跡名	刈小野・白丹地区	所在地	竹田市大字刈小野・久住町大字白丹
調査原因	竹田水害緊急治水ダム事業			調査期間	平成11年10月18日～10月19日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約1,100㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					
No.	201	遺跡名	古郷地区	所在地	竹田市古郷
調査原因	国道442号道路改良			調査期間	平成11年7月15日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約3,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					
No.	202	遺跡名	史跡岡城跡	所在地	竹田市大字久田2889番地外
調査原因	史跡整備			調査期間	平成11年7月1日～平成12年2月7日
調査機関	竹田市教育委員会			調査担当者	佐伯 治
調査面積	1,000㎡	時期	近世	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
建物跡・排水施設等		肥前系陶磁器類・瓦等		本年度は中川民部屋敷跡の調査を実施した。中川民部は家老職であり、城内における家老屋敷の形態を知る上での成果が期待される。	
関係文献					

No. 203	遺跡名	坂折遺跡	所在地	竹田市大字飛田川字坂折
	調査原因	県営担い手育成基盤整備	調査期間	平成12年1月25日～3月17日
	調査機関	竹田市教育委員会	調査担当者	真田博幸
	調査面積	約10ha	時期	縄文～古墳
			遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
住居跡(縄文晩期1・古墳前期7)		土器・石器・鉄器等		遺跡は稲葉川により形成された河岸段丘に立地する弥生から古墳時代にかけての集落跡である。
関係文献				
No. 204	遺跡名	刈小野地区	所在地	竹田市大字刈小野
	調査原因	農免道路整備	調査期間	平成10年8月25日～10月4日
	調査機関	竹田市教育委員会	調査担当者	真田博幸
	調査面積	約2,000㎡	時期	
			遺物の保管	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
なし		なし		刈小野地区は竹田市北西部の稲葉川流域に位置する。稲葉川流域には縄文から古墳にかけての遺跡が数多く立地し、この地区にも同様な遺跡の存在する可能性がある。
関係文献				
No. 205	遺跡名	名子地区	所在地	竹田市大字中角字名子
	調査原因	県営園場整備	調査期間	平成11年11月26日～12月27日
	調査機関	竹田市教育委員会	調査担当者	真田博幸
	調査面積	約2,300㎡	時期	
			遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
なし		なし		名子地区は竹田市南部の祖母山系の山々から派生する丘陵・谷部に立地する。土器遺跡(弥生)・高城遺跡(中世)等が近接することから、同様な遺跡の可能性がある。
関係文献				
No. 206	遺跡名	城下町遺跡(難波屋跡)	所在地	竹田市大字竹田字本町
	調査原因	店舗新築	調査期間	平成12年2月21日～3月30日
	調査機関	竹田市教育委員会	調査担当者	佐伯 治
	調査面積	約800㎡	時期	近世～近代
			遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
建物跡6(江戸期以降)		陶磁器類等		今回調査した難波屋跡は城下町の西に位置する。近接して両者の発跡所である御客原がある。調査から江戸期～昭和初期の町屋建物の構造を知る資料がえられた。
関係文献				
No. 207	遺跡名	片ヶ瀬遺跡	所在地	竹田市大字片ヶ瀬
	調査原因	農免道路整備	調査期間	平成11年10月14日～11月14日
	調査機関	竹田市教育委員会	調査担当者	真田博幸
	調査面積	約1,000㎡	時期	縄文～古墳
			遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
住居跡(古墳)		土器(縄文晩期・古墳) 石器(縄文晩期)		片ヶ瀬遺跡は史跡阿城跡東南、白滝川右岸の火山性台地に立地する。この台地上には、縄文から近世までの道路が数多く存在する。
関係文献				

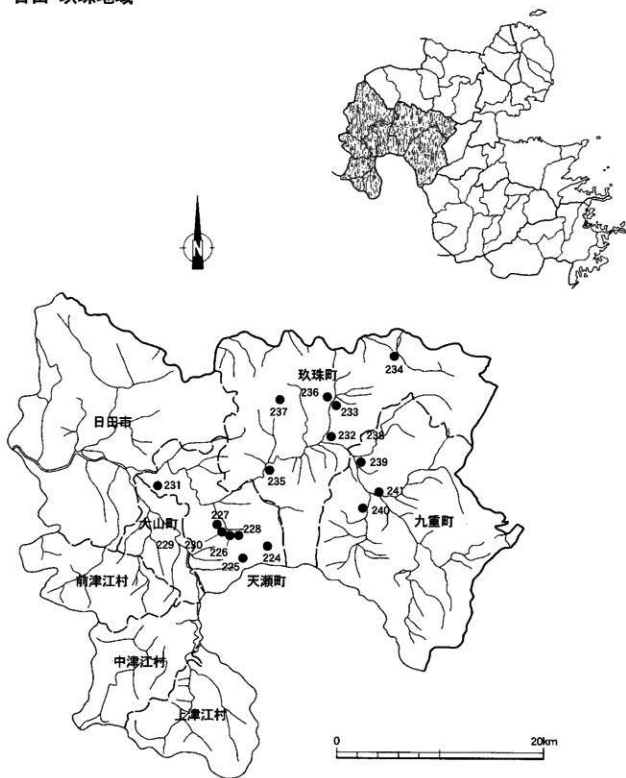


No. 208	遺跡名	中川午之介屋敷群	所在地	竹田市大字竹田字芝原	
調査原因	国道502号改良工事		調査期間	平成11年6月1日～平成12年2月10日	
調査機関	竹田市教育委員会		調査担当者	城戸 誠	
調査面積	約1,150㎡	時期	近世	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴群・排水施設等		肥前系陶磁器類		中川午之介屋敷群は岡藩家老中川午之介下屋敷周辺に展開する近世武家屋敷跡群であり、岡城から西に延びる丘陵尾根部に位置する。	
関係文献					
No. 209	遺跡名	下石家東足軽屋敷跡	所在地	竹田市大字竹田字上角	
調査原因	上水施設建設工事		調査期間	平成11年7月1日～10月29日	
調査機関	竹田市教育委員会		調査担当者	城戸 誠	
調査面積	約210㎡	時期	江戸～明治	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑・建物跡・土解跡等		肥前系陶磁器類・瓦		下石家屋敷跡は岡城から西に広がる丘陵上に所在する。櫓を囲えた屋敷跡であり、岡城の西の守りの重要な位置に存在する。下石家屋敷跡の東に隣接する足軽組頭共屋敷跡である。	
関係文献					
No. 210	遺跡名	久戸谷近世墓地群	所在地	竹田市大字竹田字久戸谷	
調査原因	国道502号改良工事		調査期間	平成12年2月14日～3月31日	
調査機関	竹田市教育委員会		調査担当者	城戸 誠	
調査面積	約330㎡	時期	近世	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
墓穴		人骨・陶磁器類・土解跡等		城下町を取り囲む丘陵に多くの墓地が存在し、久戸谷近世墓地群もその一つである。江戸時代の武家の埋葬様式を知る貴重な資料である。	
関係文献					
No. 211	遺跡名	近地城跡周辺地区	所在地	朝地町大字朝地字寺田847	
調査原因	携帯電話無線基地局建設(朝地地区)		調査期間	平成11年6月2日～6月3日	
調査機関	朝地町教育委員会		調査担当者	吉野公紀	
調査面積	約20㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		中世山城と考えられている近地城跡の近接地に携帯電話無線基地局建設計画があり試掘調査を行ったが、遺構・遺物ともに確認できなかった。	
関係文献					
No. 212	遺跡名	榎の口遊跡群	所在地	犬飼町柴地	
調査原因	県道中土師犬飼線道路改良		調査期間	平成11年6月10日	
調査機関	大分県教育委員会		調査担当者	後藤一重	
調査面積	約200㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					

No.	213	遺跡名	大屋遺跡	所在地	三重町大字菅生字大屋
調査原因	宅地造成			調査期間	平成11年6月12日～6月13日
調査機関	三重町教育委員会			調査担当者	諸岡 郁
調査面積	580㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		開発予定地域において試験調査を行ったが遺構・遺物は検出できず本調査は必要なしと判断した。	
関係文献					
No.	214	遺跡名	上田原遺跡	所在地	三重町大字上田原字立野
調査原因	集落排水事業			調査期間	平成11年7月6日～7月16日
調査機関	三重町教育委員会			調査担当者	諸岡 郁
調査面積	54㎡	時期	古墳	遺物の保管	三重町中央公民館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡		土師器		試験トレンチより住居跡と思われる竪穴遺構5基を検出した。周辺からは土器片を採取できるため集落跡が存在したと思われる。	
関係文献					
No.	215	遺跡名	鏡泊屋平地区	所在地	三重町大字内田字岩崎外
調査原因	農道建設			調査期間	平成11年8月26日～9月2日
調査機関	三重町教育委員会			調査担当者	諸岡 郁
調査面積	124㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		開発予定地域において試験調査を行ったが遺構・遺物は検出できず本調査は必要なしと判断した。	
関係文献					
No.	216	遺跡名	久知良原遺跡(宝心地区)	所在地	三重町大字内田字宝心
調査原因	宅地造成			調査期間	平成11年11月16日～11月26日
調査機関	三重町教育委員会			調査担当者	諸岡 郁
調査面積	110㎡	時期	古墳	遺物の保管	三重町中央公民館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡		土器		試験トレンチを2本設定した結果、住居跡とみられる竪穴遺構1基を検出した。周辺から土器片出土の伝承があることから集落跡が想定され、注意する必要がある。	
関係文献					
No.	217	遺跡名	浅水井上原遺跡	所在地	三重町大字浅瀬字井上原
調査原因	農業基盤整備			調査期間	平成12年1月17日～1月31日
調査機関	三重町教育委員会			調査担当者	諸岡 郁
調査面積	300㎡	時期	弥生	遺物の保管	三重町中央公民館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡		土器・石器		試験トレンチを2本設定した結果、住居跡とみられる竪穴遺構3基を検出した。台地上に広がる集落跡が想定される。	
関係文献					

No.	218	遺跡名	横迫遺跡群	所在地	荻町大字恵良原740番地
調査原因	住宅建設工事			調査期間	平成11年8月24日
調査機関	荻町教育委員会			調査担当者	荒井孝廣
調査面積	2,000㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		_____	
関係文献					
No.	219	遺跡名	山ノ神谷遺跡	所在地	荻町大字桑木字矢所317番地
調査原因	農免農道荻西部3期地区整備事業			調査期間	平成11年9月13日～11月24日
調査機関	荻町教育委員会			調査担当者	荒井孝廣
調査面積	4,074㎡	時期	弥生	遺物の保管	荻町中央公民館資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
堅穴遺跡・溝・土坑		弥生土器・石器		弥生時代集落跡	
関係文献 「荻台地の遺跡」I～X 荻町教育委員会 1976～1986					
No.	220	遺跡名	下荻岳遺跡	所在地	荻町大字藤渡字荻岳33-1
調査原因	携帯電話無線基地局設置			調査期間	平成11年11月25日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	荒井孝廣
調査面積	300㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		_____	
関係文献					
No.	221	遺跡名	郡山南遺跡	所在地	大野町大字郡山
調査原因	広域農道大野川中流域			調査期間	平成12年3月6日～3月7日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	甲斐寿義
調査面積	100㎡	時期	旧石器	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
旧石器時代の陥穴		_____		_____	
関係文献					
No.	222	遺跡名	大黒遺跡	所在地	千歳村大字下山字大黒
調査原因	県道三重新幹線道路改良工事			調査期間	平成12年2月1日～2月2日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約800㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑・柱穴		土器片		集落跡	
関係文献					
No.	223	遺跡名	下川北地区	所在地	直入町下田北
調査原因	県道庄内久住線改良工事			調査期間	平成11年9月14日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約3,000㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		_____	
関係文献					

# 日田・玖珠地域



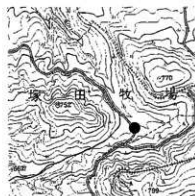
No.	224	遺跡名	高瀬遺跡(高瀬Ⅲ遺跡)	所在地	天瀬町大字塚田字高瀬1753
調査原因	広域営農団地農道整備事業日田地区			調査期間	平成11年6月16日～11月30日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	今山秀樹
調査面積	約245㎡	時期	旧石器・縄文・平安	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室

## 位置

町の南部には、標高350～800mの『五馬台地』が展開している。遺跡は、その東部の標高670m前後の丘陵部分に位置している。

調査地周辺は、現在、牧草地として利用されており、そのため北西側に向かって斜めにかなりの削平を受けていた。

調査地点は、地形的に北側と西側の2カ所からの水の確保が容易に出来たと思われるとともに、調査からうかがえる旧地形(Ⅵ層上面；地形測量図参照)が予想以上の平坦面を形成していたことから、当時は非常に生活に適した場だったと思われる。



高瀬遺跡(高瀬Ⅲ遺跡)  
(1/25,000[杖立])



出土石器

## 基本層序

I層～表土(牧草地の整地層)、II層～黒褐色土層(クロボク等の2次堆積と思われる)、III層～黒色土層(アカホヤ下のクロボク)、IV層～黄色ローム層(25～35cm)、V層(黒色帯35～40cm)・Va層～黄灰褐色土層・Vb層～薄黒褐色土層、VI層～黄色ローム層(20～30cm)、VII層(九重第1軽石層25～30cm)、VIII層～黄色ローム

※IV層の下部付近に始良Tn火山灰の降灰層準があると考えられる。

## 旧石器時代の調査

旧石器時代の遺物は、III層からIV層上面にかけて出土し、その取り上げ点数は4,600点以上である。遺物は現在整理中であるが、今のところ把握できているものとしては、細石刃30点以上、台形石器1点、剥片尖頭器1点、ナイフ形石器45点以上、たたき石2点、石核などが挙げられる。

なお、細石刃はIII層からIV層にかけて確認され、ナイフ形石器の検出層位についてはIII層下部からV層下部にかけてであり、そのうちIV層下面からV層下部にかけてのAT下位にあたるものが量的に断然多いようである。石材については、細石刃はすべて腰岳産と思われる良質の黒曜石である。全体的に見れば、青灰色の(角閃)安山岩が半数以上を占めるようであり、次いで小国(大山)産黒曜石と阿蘇系の黒曜石、そして(大分でいう)流紋岩とつづき、残りは多種多様な石材である。

カーボン(炭化物)については、IV層からVI層にかけて検出でき、その取り上げ点数は20,000点を越えている。

遺物、カーボンともに各層より満遍なく検出されたが、時間的制約などのため、調査結果での集中区及び文化層等の把握はできなかった。今後整理をしていく上での事後操作により、これらの課題を少しでも解消したい。

遺構としては、IV層下部からVa層にかけての位置に礎群を確認した。

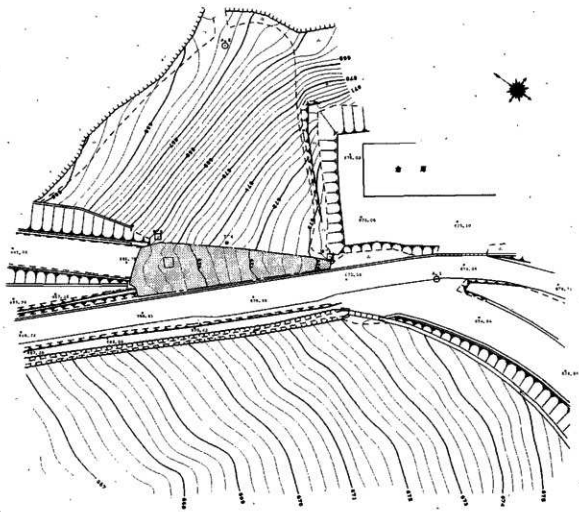
## まとめ

九州の内陸中央部に位置している『五馬台地』では、近年相次いで旧石器時代遺跡の調査が実施されており、筑後川上流域では唯一発掘調査の事例が積み重ねられている地域といえる。

今回の高瀬遺跡の調査は、約245㎡と狭い面積にも拘わらず各層より満遍なく遺物が検出され、あわせて様々な石材が認められている。

以上のことから、本遺跡の資料を基幹とし、他の調査資料を合わせ考えることにより、筑後川上流域の当該期の基礎資料ができるものと思われる。

(今田秀樹)



高瀬遺跡地形測量図(1/750)

※ 部分が調査区。等高線はV層上面のもの。

No.	225	遺跡名	塚田野遺跡群	所在地	天瀬町大字塚田字平草1761-1
調査原因	携帯電話基地局建設			調査期間	平成12年6月9日～6月22日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	東 貴之・今田秀樹
調査面積	約250㎡	時期	旧石器・縄文	遺物の保管	—
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		当遺跡は旧石器・縄文時代の周知遺跡である。今回、確認調査を実施した地点での遺跡の存在は確認できなかった。	
関係文献					
No.	226	遺跡名	下原遺跡	所在地	天瀬町大字塚田字下原898-1
調査原因	山村振興等特別対策事業			調査期間	平成10年7月7日～7月8日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	東 貴之
調査面積	1,869㎡	時期	縄文・近世・近代	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		近世・近代陶磁器片 姫島産黒曜石片		試験調査の結果、遺構及び遺物包含層は確認出来なかった。調査地周辺には石造物が多数存在しているため、今後、注意が必要である。	
関係文献					
No.	227	遺跡名	宇土堀ノ木遺跡	所在地	天瀬町大字五馬市宇土堀ノ木1702番2
調査原因	携帯電話基地局建設			調査期間	平成11年9月2日～9月4日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	今田秀樹
調査面積	約400㎡	時期	旧石器～古墳	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑1(陥穴状遺構?)		旧石器時代と考えられる剥片2点 縄文土器2点 弥生土器3点		調査地点はいわゆる「宇土古墳群」が所在する台地北側の斜面に近い部分である。後世の削平などにより遺物包含層は失われたようである。	
関係文献					
No.	228	遺跡名	山田遺跡	所在地	天瀬町大字塚田字山田
調査原因	県営開場整備事業塚田地区			調査期間	平成11年9月2日～11月11日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	東 貴之・今田秀樹
調査面積	約2,200㎡	時期	旧石器・縄文・中世～近代	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
陥穴状遺構1 中世(?)墓2・近世築杭(?)5 火葬墓1～2(近世?) 竪立柱建物跡(近世?) 縄文時代遺物包含層(早期後半が中心)		縄文土器(手向山式ほか)・石器類 中世・近世の土器器・陶磁器・鉄器		旧石器時代から近代の複合遺跡である。縄文時代の遺物包含層は、旧地形斜面部に存在しており、本来の生活面は後世の削平により失われていた。同地点において中世以降の墓坑が存在していることから、その墳にはすでに削平されていたのであろう。	
関係文献					

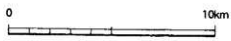
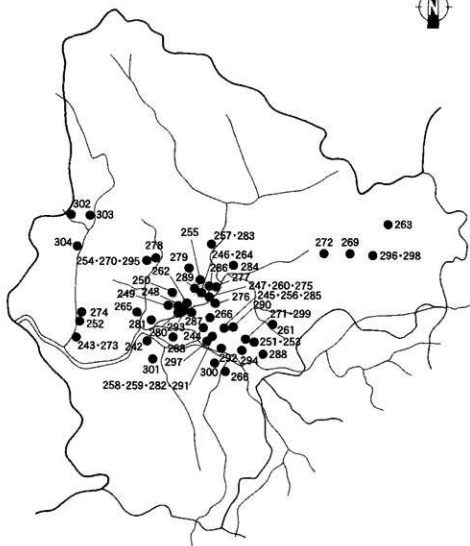
No. 229	遺跡名	杉ソノ遺跡	所在地	天瀬町大字五馬市字杉ソノ2384-4・2396	
調査原因	地域農業基盤確立農業構造改善事業		調査期間	平成11年12月9日～平成12年2月1日	
調査機関	天瀬町教育委員会		調査担当者	今田秀樹	
調査面積	約5,100㎡	時期	旧石器～弥生・近世・近代	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
弥生時代後期竪穴住居跡17 土坑1		旧石器時代 原の辻型台形石器・総野型燧石核等 弥生時代 土器・石皿等		旧石器時代から近代にかけての複合遺跡である。調査は盗宝の建設工事にもない、建設場所選定のために実施した。その結果、開発予定範囲内全体に遺跡の存在が明らかとなり、全面調査が必要と考えられる。	
関係文献					
No. 230	遺跡名	杉ソノ遺跡	所在地	天瀬町大字五馬市字杉ソノ2384-4・2396	
調査原因	地域農業基盤確立農業構造改善事業		調査期間	平成12年2月3日～3月31日(次年度継続)	
調査機関	天瀬町教育委員会		調査担当者	今田秀樹	
調査面積	約5,100㎡	時期	弥生時代等	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
弥生時代後期中期～後葉の 竪穴住居跡18 陥穴遺構1		弥生時代 土器・鉄器・砥石・石皿・磨石等		遺跡は、隣接する神尾原遺跡から北方に延びる舌状台地上に位置している。今回までの調査でこの台地上に弥生時代後期中葉から中葉時代初期の竪穴住居跡が120軒以上確認されたことになる。蓄積された資料は当地域における当該期の土器編年や住居形態及びその立地の家選などを語る上で欠かせないものとなる。	
関係文献					
No. 231	遺跡名	台地区	所在地	天瀬町大字女子畑字台	
調査原因	県営圃場整備女子畑地区		調査期間	平成12年3月22日～3月30日	
調査機関	大分県教育委員会		調査担当者	甲斐寿彦	
調査面積	600㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		——	
関係文献					
No. 232	遺跡名	平台遺跡	所在地	玖珠町大字帆足字塚切	
調査原因	携帯電話基地局建設		調査期間	平成11年9月29日～10月29日	
調査機関	玖珠町教育委員会		調査担当者	佐藤祐二	
調査面積	250㎡	時期	弥生	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
大塚1坑1 溝状遺構3		弥生土器片数点 近世土器片・土器片 石礫1点		弥生時代から近世までの遺物が出上したが、後世の畑作などによりかなり攪乱されている。中世の遺跡ともいわれ削平地が幾度も確認できる。	
関係文献					



No.	233	遺跡名	旭谷地区	所在地	玖珠町大字森字旭谷
調査原因	確認調査			調査期間	平成12年3月6日～3月23日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	300㎡	時期	近世	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		近世陶磁器片		調査区は近世の武家屋敷跡といわれており、現在は畑によりかなり覆乱されている。	
関係文献					
No.	234	遺跡名	柿木・石飛地区	所在地	玖珠町大字日出生字柿木
調査原因	農業基盤整備事業			調査期間	平成11年11月29日～12月2日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	1,000㎡	時期	-----	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
不定形土坑敷基		弥生土器小片数点		調査区は後世の畑や水田耕作によりかなり掘乱されている。	
関係文献					
No.	235	遺跡名	下泊里地区	所在地	玖珠町大字戸畑字下泊里
調査原因	農業基盤整備事業			調査期間	平成11年6月2日～6月4日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	800㎡	時期	-----	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
不定形土坑敷基		弥生土器小片数点		調査区は後世の水田耕作によりかなり掘平されていた。	
関係文献					
No.	236	遺跡名	平原遺跡	所在地	玖珠町大字森字平原
調査原因	広域農道建設			調査期間	平成11年8月9日～8月10日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	300㎡	時期	弥生時代後期	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
不定形土坑1		なし		調査区は水田耕作によりかなり掘平され、遺跡は確認できなかった。	
関係文献					

No.	237	遺跡名	四日市地区	所在地	玖珠町大字四日市
調査原因	県道日田玖珠線道路改良			調査期間	平成11年11月12日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約120㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					
No.	238	遺跡名	帆足地区	所在地	玖珠町大字帆足
調査原因	都市計画街路環状線道路改良			調査期間	平成11年9月13日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約250㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					
No.	239	遺跡名	右田地区	所在地	九重町大字右田
調査原因	県営恵良住宅改築工事			調査期間	平成11年9月20日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	宮内克巳
調査面積	30㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					
No.	240	遺跡名	引治地区	所在地	九重町大字引治
調査原因	県道右田引治線改良工事			調査期間	平成11年11月10日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	約100㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					
No.	241	遺跡名	釘野千軒(釘野城)遺跡	所在地	九重町大字後野上字釘野
調査原因	町道野上釘野線道路補修工事			調査期間	平成11年7月5日～7月21日
調査機関	九重町教育委員会			調査担当者	竹野孝一郎
調査面積	54.74㎡	時期	中世	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
削平段(腰曲輪)		出土遺物なし		中世山城	
関係文献					
竹野孝一郎『釘野千軒遺跡』I 九重町教育委員会 1997					

日田市



No.	242	遺跡名	原山遺跡	所在地	日田市大字石井字熊山
調査原因	墓地造成			調査期間	平成11年4月20日～5月26日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸・行時志郎・吉田博嗣・若杉良太
調査面積	200㎡	時期	中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
墓・五輪塔		十師寶土器		墓地	
関係文献					
No.	243	遺跡名	大肥条里(祝原地区)	所在地	日田市大字夜明字遺ノ外
調査原因	県営担い手育成基盤整備事業			調査期間	平成11年5月17日～平成12年1月17日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸・吉田博嗣・若杉良太・五十川雄也
調査面積	7,500㎡	時期	縄文・弥生	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
塚穴・集石遺構 柱穴・土坑		縄文土器・石器 弥生土器 土師質土器		集落跡	
関係文献					
No.	244	遺跡名	史跡成宜園跡	所在地	日田市大字南豆田字中城
調査原因	確認調査			調査期間	平成11年7月28日～平成12年2月29日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸
調査面積	300㎡	時期	近世・近代	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑・近代建物基礎		陶磁器		塾跡	
関係文献					
No.	245	遺跡名	大波羅遺跡(第1次調査:A区)	所在地	日田市大字田島字大原
調査原因	街路事業			調査期間	平成11年6月2日～6月9日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎・吉田博嗣
調査面積	440㎡	時期	縄文・弥生・現代	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝・柱穴・土坑		縄文土器 弥生土器 陶磁器		集落跡	
関係文献					
No.	246	遺跡名	本村遺跡	所在地	日田市大字渡里字本村
調査原因	宅地造成			調査期間	平成11年6月15日～6月16日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸・行時志郎・吉田博嗣
調査面積	200㎡	時期	古墳・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝 孤立柱礎物		須恵器 土師質土器		集落跡	
関係文献					

No.	247	遺跡名	日田栄里(上手地区:第2次調査)		所在地	日田市大字西有田字上手	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成11年7月28日～8月11日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎・吉田博嗣	
調査面積	850㎡	時期	古代		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
独立柱建物・土坑 包含層		土師器・須恵器 白磁・鉄滓・石鍋 瓦質土器			集落跡		
関係文献							
No.	248	遺跡名	吹上遺跡(第10次調査)		所在地	日田市大字小迫字吹上原	
調査原因	確認調査				調査期間	平成11年7月26日～8月31日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸・下村 智	
調査面積	330㎡	時期	弥生		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
甕棺墓・木棺墓・土坑墓 貯蔵穴・竪穴住居・大溝 独立柱建物・柱穴		弥生土器・石器			集落跡・墓地		
関係文献							
No.	249	遺跡名	朝日ヶ丘遺跡(第3次調査)		所在地	日田市大字小迫字小迫原	
調査原因	市営住宅建設				調査期間	平成11年8月30日～10月25日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸・若杉良太・五十川雄也	
調査面積	1,250㎡	時期	縄文・近現代		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
陥穴・柱穴 溝		縄文土器・石器 陶磁器			集落跡		
関係文献							
No.	250	遺跡名	天満古墳群		所在地	日田市大字小迫字天神山	
調査原因	確認調査				調査期間	平成11年9月16日～9月27日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸・下村 智	
調査面積	80㎡	時期	古墳		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
周溝・石室		須恵器			墳墓		
関係文献							
No.	251	遺跡名	元宮遺跡(第2次調査)		所在地	日田市大字求来里字堂園	
調査原因	土砂採取				調査期間	平成11年9月2日～10月1日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎・吉田博嗣	
調査面積	105㎡	時期	弥生		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
甕棺墓		弥生土器			墓地		
関係文献							

No. 252	遺跡名	大肥桑里(上村地区)	所在地	日田市大字夜明字上村	
調査原因	築營祖い・子育て基礎整備事業		調査期間	平成11年9月28日～10月29日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	土居和幸・吉田博嗣・若杉良太・五十川謙也	
調査面積	235㎡	時期	弥生・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
栗棺墓・土坑・柱穴		弥生土器・土師質土器		集落跡・墓地	
関係文献					
No. 253	遺跡名	元宮遺跡(第3次調査)	所在地	日田市大字求来里字堂岡	
調査原因	福祉施設建設		調査期間	平成11年9月28日～11月19日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎・吉田博嗣・若杉良太	
調査面積	1,492㎡	時期	古墳・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
石葺土坑墓・石棺墓 塚・方形周溝状遺構・竝柱墓		鉄鏃・刀子・勾玉・管玉 土師質土器		墓地	
関係文献					
No. 254	遺跡名	山ノ口遺跡	所在地	日田市大字山田字山ノ口	
調査原因	用地造成		調査期間	平成11年11月18日～12月15日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎・若杉竜太	
調査面積	840㎡	時期	縄文・弥生	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
包含層・柱穴・土坑		縄文土器・石器 土師質土器 瓦質土器		集落跡	
関係文献					
No. 255	遺跡名	後迫遺跡	所在地	日田市大字小道字天神山	
調査原因	農道整備		調査期間	平成11年9月16日～9月27日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	土居和幸・下村 晋	
調査面積	400㎡	時期	弥生・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡・竪棺墓 溝		弥生土器		集落・墓地	
関係文献					
No. 256	遺跡名	大教羅遺跡(第1次調査:B区)	所在地	日田市大字田島字大波羅	
調査原因	街路事業		調査期間	平成11年12月8日～平成12年3月31日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	土居和幸・行時志郎・五十川謙也	
調査面積	2,000㎡	時期	奈良	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴・掘立柱建物・溝 溝跡・柱穴		石器・須恵器		集落跡	
関係文献					

No.	257	遺跡名	三和教団遺跡(G地点)	所在地	日田市大字三和字大塚
調査原因	宅地造成			調査期間	平成12年1月11日～2月10日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎・吉田博嗣
調査面積	500㎡	時期	弥生・古墳	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝		縄文土器 弥生土器 土葬器			
関係文献					
No.	258	遺跡名	日田糸里(大原地区:第1次調査)	所在地	日田市大字日島字大原
調査原因	アパート建設			調査期間	平成12年2月7日～3月8日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	若杉竜太
調査面積	300㎡	時期	弥生・古墳・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
堀穴・土坑・柱穴		弥生土器・須恵器 土師質土器		集落跡	
関係文献					
No.	259	遺跡名	日田糸里(大原地区:第2次調査)	所在地	日田市大字日島字椿ノ木
調査原因	個人住宅建設			調査期間	平成12年2月7日～3月8日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	若杉竜太
調査面積	184㎡	時期	弥生・奈良	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
堀穴・土坑・柱穴		弥生土器・須恵器		集落跡	
関係文献					
No.	260	遺跡名	日田糸里(上手地区:第2次調査)	所在地	日田市大字西有田字上手
調査原因	宅地造成			調査期間	平成11年4月21日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	若杉竜太
調査面積	51㎡	時期	古代	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝・柱穴		石組・土師質土器		集落跡	
関係文献					
No.	261	遺跡名	求米里平島遺跡隣接地	所在地	日田市大字求米里字家
調査原因	資材置場・事務所造成			調査期間	平成11年5月11日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	12㎡	時期	古墳時代	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴・溝		土器		集落跡	
関係文献					

No.	262	遺跡名	草場第二遺跡隣接地		所在地	日田市大字渡里字一本出	
調査原因	無線基地局建設				調査期間	平成11年5月11日～5月12日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	10㎡	時期	——		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			土器		——		
関係文献							
No.	263	遺跡名	高花遺跡		所在地	日田市大字羽田字高花	
調査原因	中山間地域総合整備事業				調査期間	平成11年5月13日・5月26日・9月2日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	150㎡	時期	縄文		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
包含層			縄文土器・石器		包蔵地		
関係文献							
No.	264	遺跡名	日田糸里隣接地(本村地区)		所在地	日田市大字渡里字本村	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成11年5月20日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	30㎡	時期	中世・近世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
柱穴・溝			土器・青磁		集落跡		
関係文献							
No.	265	遺跡名	友田坂本遺跡		所在地	日田市大字友田字坂本	
調査原因	宅地分譲				調査期間	平成11年5月25日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	16㎡	時期	弥生・奈良		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
柱穴・溝			土器		集落跡		
関係文献							
No.	266	遺跡名	日田糸里(四反田地区)		所在地	日田市大字田島字四反田	
調査原因	駐車場造成				調査期間	平成11年5月28日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	30㎡	時期	古代・中世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
柱穴・土坑			土器		集落跡		
関係文献							



No.	267	遺跡名	恵田遺跡隣接地	所在地	日田市大字高瀬字岩下
調査原因	道路建設			調査期間	平成11年6月1日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	20㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		_____	
関係文献					
No.	268	遺跡名	徳順遺跡隣接地	所在地	日田市大字庄手字笠川
調査原因	住宅建設			調査期間	平成11年6月3日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	10㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		_____	
関係文献					
No.	269	遺跡名	八田遺跡隣接地	所在地	日田市大字羽田字山ノ下
調査原因	果樹園場整備事業(山下・中畑工区)			調査期間	平成11年6月8日～6月9日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	110㎡	時期	中世・近世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴		土器・石器		集落跡	
関係文献					
No.	270	遺跡名	岩崎遺跡隣接地(山ノ口地区)	所在地	日田市大字山田字山ノ口
調査原因	用地造成			調査期間	平成11年6月22日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	30㎡	時期	縄文・弥生	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴・溝		土器・石器		_____	
関係文献					
No.	271	遺跡名	元宮遺跡(第4次調査)	所在地	日田市大字求来里字元宮
調査原因	農道建設			調査期間	平成11年7月19日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	70㎡	時期	_____	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑3		土器		_____	
関係文献					

No. 272	遺跡名	八戸遺跡隣接地		所在地	日田市大字羽田字中畑	
調査原因	県営岡地整備事業(岡組工区)			調査期間	平成11年7月21日	
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎	
調査面積	100㎡	時期	——	遺物の保管	——	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
なし		なし		——		
関係文献						
No. 273	遺跡名	大肥糸里(祝原地区)		所在地	日田市大字夜明字道ノ外	
調査原因	県営担い手育成基盤整備事業			調査期間	平成11年8月4日	
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	若杉良太	
調査面積	95㎡	時期	中世	遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
柱穴		土師質土器		集落跡		
関係文献						
No. 274	遺跡名	大肥糸里(茶屋ノ廻地区)		所在地	日田市大字夜明字茶屋ノ廻	
調査原因	県営担い手育成基盤整備事業			調査期間	平成11年8月4日	
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	若杉良太	
調査面積	40㎡	時期	中世	遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
柱穴・土坑		土師質土器		集落跡		
関係文献						
No. 275	遺跡名	日田糸里(城北地区)		所在地	日田市大字菟屋字拍手	
調査原因	市道建設			調査期間	平成11年8月25日	
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎	
調査面積	14㎡	時期	——	遺物の保管	——	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
なし		なし		——		
関係文献						
No. 276	遺跡名	大蔵古城跡		所在地	日田市大字北豆田字城山外	
調査原因	総合開発			調査期間	平成11年8月30日～9月10日	
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎・五十川謙也	
調査面積	89㎡	時期	古代・中世	遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
柱穴・溝・段状遺構		土師器・輸入陶磁器・鉄器		城跡		
関係文献						

No. 277	遺跡名	日田条里(内福地区)	所在地	日田市大字西有田字内福	
調査原因	北部中学校教室棟改修		調査期間	平成11年9月11日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	土居和幸	
調査面積	5㎡	時期	古代・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
水田層		土器片			
関係文献					
No. 278	遺跡名	岩崎遺跡隣接地	所在地	日田市大字山田字上原	
調査原因	肉用牛生産組合育成対策事業		調査期間	平成11年9月18日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎	
調査面積	30㎡	時期	---	遺物の保管	---
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし			
関係文献					
No. 279	遺跡名	山田原遺跡隣接地	所在地	日田市大字渡里字千倉道	
調査原因	乳牛糞尿処理施設建設事業		調査期間	平成11年10月5日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎	
調査面積	15㎡	時期	---	遺物の保管	---
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし			
関係文献					
No. 280	遺跡名	日田条里(中川原地区)	所在地	日田市大字渡里字中川原	
調査原因	宅地分譲		調査期間	平成11年10月7日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎	
調査面積	20㎡	時期	---	遺物の保管	---
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし			
関係文献					
No. 281	遺跡名	大内田遺跡隣接地	所在地	日田市大字友田字三郎丸	
調査原因	市道建設		調査期間	平成11年10月9日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎	
調査面積	25㎡	時期	---	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		須志器			
関係文献					

No. 282	遺跡名	日田糸里(大原地区：第1次調査)	所在地	日田市大字田島字大原	
調査原因	アパート建設		調査期間	平成11年10月19日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎	
調査面積	15㎡	時期	弥生・古墳	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡		弥生土器 土師器・須恵器		集落跡	
関係文献					
No. 283	遺跡名	三和教田遺跡(G地点)	所在地	日田市大字三和字大塚	
調査原因	宅地造成		調査期間	平成11年10月26日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎	
調査面積	20㎡	時期	弥生～中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
水田・水路		弥生土器 土師器 陶磁器		—	
関係文献					
No. 284	遺跡名	大行事遺跡	所在地	日田市大字西有田	
調査原因	広域農道建設		調査期間	平成11年11月1日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	若杉竜太	
調査面積	16㎡	時期	古代・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡・土坑		打製石斧・土師器・須恵器		集落跡	
関係文献					
No. 285	遺跡名	大波羅遺跡	所在地	日田市大字田島	
調査原因	法務局建設		調査期間	平成11年11月17日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎	
調査面積	60㎡	時期	古墳～中世	遺物の保管	—
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝・柱穴・包含層		土師器		集落跡	
関係文献					
No. 286	遺跡名	日田糸里(上手地区：第5次調査)	所在地	日田市大字三和字当根町	
調査原因	宅地造成		調査期間	平成11年11月19日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎	
調査面積	20㎡	時期	古代・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴		土器		集落跡	
関係文献					

No.	287	遺跡名	日田条里(丸の内地区)		所在地	日田市大字南豆田字丸の内	
調査原因	児童館建設				調査期間	平成12年1月6日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	20㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		——		
関係文献							
No.	288	遺跡名	日高遺跡		所在地	日田市大字日高	
調査原因	農業用倉庫建設				調査期間	平成12年1月17日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	10㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		——		
関係文献							
No.	289	遺跡名	本村遺跡(第2次調査)		所在地	日田市大字渡里	
調査原因	分譲地造成				調査期間	平成12年1月18日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	30㎡	時期	古墳・中世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
堅穴住居・溝・土坑・柱穴			土師器・須恵器		集落跡		
関係文献							
No.	290	遺跡名	会所宮遺跡		所在地	日田市大字田島字会ヶ迫	
調査原因	分譲地造成				調査期間	平成12年1月20日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	20㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		——		
関係文献							
No.	291	遺跡名	日田条里(大原地区:第2次調査)		所在地	日田市大字田島字柿ノ木	
調査原因	個人住宅建設				調査期間	平成12年1月21日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	30㎡	時期	弥生・古墳・中世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
土坑・柱穴・包含層			弥生土器・土師器・須恵器		集落跡		
関係文献							

No. 292	遺跡名	柳ノ本遺跡隣接地	所在地	日田市大字竹田字上塚
調査原因	管理棟改築		調査期間	平成12年1月30日
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎
調査面積	10㎡	時期	中世	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
水田層		なし		_____
関係文献				
No. 293	遺跡名	日田糸里	所在地	日田市大字渡里字柿町
調査原因	医院新築工事		調査期間	平成12年2月5日
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎
調査面積	30㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
なし		なし		_____
関係文献				
No. 294	遺跡名	元宮遺跡隣接地	所在地	日田市大字日高字追
調査原因	宅地造成		調査期間	平成12年2月17日
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎
調査面積	10㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
なし		なし		_____
関係文献				
No. 295	遺跡名	山ノ口遺跡	所在地	日田市大字山田字山ノ口
調査原因	用地造成		調査期間	平成12年2月25日
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎
調査面積	60㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
なし		なし		_____
関係文献				
No. 296	遺跡名	岩下・横畑・入美工区	所在地	日田市大字羽田
調査原因	県営開場整備事業		調査期間	平成12年3月9日
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎
調査面積	60㎡	時期	_____	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格
なし		なし		_____
関係文献				

No.	297	遺跡名	日田糸里岡城地	所在地	日田市大字竹田字栗ノ木
調査原因	駐車場造成			調査期間	平成12年3月12日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	20㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					
No.	298	遺跡名	羽田地区	所在地	日田市大字東有田
調査原因	県営中山間地域総合整備事業			調査期間	平成12年3月7日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	20㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		——	
関係文献					
No.	299	遺跡名	元宮遺跡	所在地	日田市大字求来里字元宮
調査原因	造成工事			調査期間	平成12年3月18日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	20㎡	時期	古代	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		瓦・土師器		——	
関係文献					
No.	300	遺跡名	高瀬糸里(永平寺地区)	所在地	日田市大字高瀬字火ノ口
調査原因	宅地造成			調査期間	平成12年3月21日～3月25日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	60㎡	時期	古墳・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡・土坑・柱穴		土師器・須恵器		集落跡	
関係文献					
No.	301	遺跡名	長者原遺跡	所在地	日田市大字小山字沖原
調査原因	個人住宅建設			調査期間	平成12年3月23日～3月31日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	101㎡	時期	古墳	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
石棺・竪穴式石室		土師器		墓地	
関係文献					